

# 国立国語研究所学術情報リポジトリ

基礎篇第十二課 そうじは してありますか：  
してある，しておく，してしまう

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2020-03-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国立国語研究所 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.15084/00002791">https://doi.org/10.15084/00002791</a>

日本語教育映画解説12

基礎篇第十二課

そうじは してありますか  
——してある, しておく, してしまう——

国立国語研究所

## 前 書 き

国立国語研究所では、昭和49年度以来、日本語教育部ついで日本語教育センターにおいて、日本語教育教材開発事業の一環として日本語教育映画基礎篇を作成してきた。これは従来、文化庁において進められていた映画教材作成の事業を新たな形で引き継いだものである。

日本語教育映画基礎篇は、各課5分の映画にそれぞれ完結した主題と内容を持たせ、それを教育の必要に応じて使用する補助教材、また、系列的に初級段階の学習事項を順次指導する教材として提供しようとするもので、全30課を予定している。

映画の作成にあたっては、原案の作成・検討から概要書の執筆まで、また、実際の制作指導においても、日本語教育映画等企画協議会委員の方々に御協力いただいた。ここに厚く御礼申し上げる。

この解説書は、映画教材の作成意図を明らかにし、これを使用して学習し、指導する上での留意点について述べたものである。この解説書がこの映画教材の利用を一層効果あるものにすることを願っている。

この第十二課「そうじは してありますか」の解説の担当者は、次のとおりである。

企画・編集	日向茂男（日本語教育センター日本語教育教材開発室）
本文執筆	“ “
資料1.，資料2.	“ “

昭和56年3月

国立国語研究所長

林 大

## 目 次

1. はじめに	1
2. この映画の目的・内容・構成	2
2.1. 目的	2
2.2. 構成——場面を中心として	6
2.2.1. 言語場面, 言語表現についての扱い	6
2.2.2. 言語場面, 言語表現についての解説	6
3. この映画の学習項目の整理と練習問題	37
3.1. 「___てある」について	39
3.2. 「___ておく」について	44
3.3. 「___てしまう」について	46
3.4. 練習問題	48
4. 参考文献	58
資料1. 使用語彙一覧	63
資料2. シナリオ全文	83

## 1. はじめに

この日本語教育映画基礎篇は、初歩の日本語学習期における視聴覚教材として企画・制作されたもので、この映画「そうじは してありますか」は、その第十二課にあたるものである。

この映画の企画、概要書（シナリオ執筆のための最終原案）の執筆等に当たったものは、次の通りである。

昭和53年度日本語教育映画等企画協議会委員（肩書きは当時のもの）

石田 敏子 国際基督教大学専任助手  
川瀬 生郎 東京外国語大学附属日本語学校教授  
木村 宗男 早稲田大学語学教育研究所教授  
窪田 富男 東京外国語大学教授  
斎藤 修一 慶応義塾大学国際センター助教授

国立国語研究所日本語教育センター関係者（肩書きは当時のもの）

野元 菊雄 日本語教育センター長  
武田 祈 日本語教育センター日本語教育教材開発室長  
日向 茂男 日本語教育センター日本語教育教材開発室研究員

この映画「そうじは してありますか」は、日向茂男の原案に協議委員会で検討を加え、概要書にまとめあげてから制作したものである。制作は、日本シネセル株式会社が担当した。概要書のシナリオ化、つまり脚本の執筆には同社の前田直明氏があたり、また同氏はこの映画の演出も担当した。ただし演出の際の言語上の問題については、協議会委員及び日本語教育センター関係者の意見が加えられている。

本解説書の執筆には日本語教育教材開発室研究員日向茂男が当たったが、企画・制作段階での意図が十分生きるよう努めた。

現在、この映画は、より多くの人の利用の便をはかって下記の九か所において貸し出しを行っている。

- 北海道教育庁指導部社会教育課視聴覚教育係
- 宮城県教育庁社会教育課
- 都立日比谷図書館視聴覚係
- 愛知県教育センター企画管理係
- 京都府教育庁社会教育課
- 大阪府教育庁社会教育課
- 兵庫県教育庁社会教育・文化財課
- 広島県教育庁社会教育課
- 福岡県視聴覚ライブラリー

なお、この映画は、そのビデオ版とともに上記制作会社が販売している。

## 2. この映画の目的・内容・構成

### 2.1. 目的・内容

この映画「そうじは してありますか」は、動詞述語部に補助動詞を含む表現のうち、「してある」「しておく」「してしまう」を導入し、その基本的な意味・用法の理解に重点を置いた作品である。動詞連用形に「て」を伴う中止法、また「て」の後に補助動詞「いる」が接続した場合の意味・用法については、別に十一課「きょうは あめが ふっています」で主要学習項目として扱った。学習内容の面で両者は連続的である。したがって、補助動詞の意味・用法をいっきに学習する場合には、この二作品を続けて利用することが学習上効果的かとも思われるが、それぞれに完結した主題と内容があり、別個の独立教材であることは、今までの基礎篇の各映画と同様である。

初期の日本語学習段階では、動詞文が導入され、その学習が一応済むと、その後、動詞音便形の学習を前提にして、徐々に補助動詞の加わった動詞文

の学習が展開していく。日本語学習はしだいに複雑さを増していくが、それと同時に日本語表現力もキメの細かい、豊かなものになっていく。「本来、動詞の言い切り形ははなはだ概念的で具体性に乏しい。『歩く』はそれのみでは概念として歩く行為を表わし、現実の場に使うときには『歩いている／～ていく／～てくる／～てしまう』と補助動詞の助けを借りなければならない」と、森田良行（「動作の起こり方を表わす語について——『てしまう、ておく、てみる、た』の用法」、『講座日本語教育』第7分冊、1971、早大語研）は、日本語教育の立場から表現論的に動詞文の性格を指摘している。「現実の場に使う」ためには、単純な動詞文の学習だけでは不十分で、補助動詞の加わった動詞文の学習は通らなくてはならない道である。

補助動詞は、今までいろいろ論じられてきた通り動作・作用の過程（アスペクト）の表現と深いかかわりがあるし、また態（ボイス）表現と関係するところもあり、更に話し手の意図や気持の表現等とも結びついている。したがって、その学習にあたっては補助動詞を含む文表現が適切な文脈の中で展開され、映像描写がその理解を助けるような配慮が必要である。この映画では、今までの映画以上に会話場面と会話の流れを重視した。ただこの映画で「\_\_\_\_てある」「\_\_\_\_ておく」「\_\_\_\_てしまう」の三つを同時に取り上げたのは、五分という映画の枠を考えるとかなり無理であったとも言える。そのそれぞれの十分な理解のためには、前提となる文脈を映像情報として描き込む必要があるからである。これについては、この映画をどのような目的でどのような学習時期に利用するのかとか、またどの程度映像情報を利用しながら学習を進めていくのか等が関係してくることである。

以上この映画の学習項目は、

- |                |                 |
|----------------|-----------------|
| (1) 「____てある」  | } の基本的な意味・用法の理解 |
| (2) 「____ておく」  |                 |
| (3) 「____てしまう」 |                 |

であるが、実際にはそのそれぞれが同等の重みで同時に学習されなければならない、ということはない。そのひとつだけを取り上げ、徹底的に学習する

ということも考えられてよい。

上記の中心学習項目以外に、この映画の中で触れられている学習項目は以下の通りである。

- (4) 時間的前後関係を表す副詞(句)の理解
- (5) 会話の始動, 展開, 終結にあたって用いられる語(句)の理解
- (6) あいさつ, あるいはそれに準ずる慣用的表現の理解
- (7) 助詞「は」, 「を」等を省略した言い方の理解
- (8) 「ぼく」「きみ」の意味・用法の理解
- (9) 「\_\_\_\_のです」の基本的な意味・用法の理解

これらの学習項目は、学習者の日本語能力に応じて取り上げられればよいもので、場合によってはこの映画の理解に必要な助言だけにとどめ、あとは無視してもさしつかえないであろう。上記学習項目のうち、(7)(8)は今までの基礎篇の各映画で触れられていない新しい項目であるが、その他の項目は今までもたびたび取り上げられてきたものであり、今後も学習項目として取り上げられるものである。このように列挙したのは、この映画ではそうした学習項目が集中的に取り扱われ、この映画だけの学習項目としても十分成立するからである。

(4)は、「これから」「今から」「もう」「後で」「さっき」等の類である。これらは、(1)~(3)の中心学習項目と必然的に関連して生まれてくるものである。ある表現文型の学習の際に、文型の骨格を肉づける形容詞(句)、副詞(句)の学習を伴うのは、いわば当然で、それは話し手の意図や気持の表現ともつながるものである。

(5)は、「あら」「おや」「ほら」「まあ」「じゃあ」、それに呼びかけ語としての「おばさん」「伊藤さん」等の類である。(6)は、「いってらっしゃい」「いってまいります」、また「秋子さんによろしく」等の類である。これらは会話場面を重視し、会話の自然らしさを出そうとすると生まれてくるもので、そのうちには初級段階で当然身につけておかななくてはならないものも多い。(7)(8)は、この映画での試みである。会話らしさという点から試みてみたもの



だが、聞き取り用としてだけに利用してもよい。この学習は、今後の映画の中でも取り上げられていくことになる。

(9)は、第十課「もみじが とても きれいでした」以来の学習項目で会話としての日本語を考えると、はずすことのできない項目である。「\_\_\_\_のです」については、第十課である程度の解説をした。

会話の流れをくみとり、会話におけるキー・ワードをつかまえ、言語場面に即して会話を理解していく訓練は大事なことであるが、初級段階でそれをどの程度組み込むかは難しいところである。(4)~(8)の学習項目を全て含めると、通常の初級段階での学習内容を越えたものになるであろう。ただ早い時期からこれらの学習内容に接しておくこともまた大事なことである。

今まで述べてきたような学習目的、学習内容に即して企画の段階では次のような考慮をした。「\_\_\_\_である」「\_\_\_\_ておく」「\_\_\_\_てしまう」の意味・用法の理解をはかるために、幾つかの小主題（小事件）を設定する。ここで小主題とは、たとえば「そうじ」であり、「忘れ物」である。これらは、まず映像的にその意味・概念が十分描かれ、よく理解される必要がある。そうした理解を前提にして、会話場面を追いながら、会話の流れに即して「そうじがしてある」や「忘れ物をしてしまう」等の表現の理解に向かうわけである。

こうして幾つかの小主題（小事件）は、伏線となり、関係しあって映画の全体を構成する。小主題は、会話場面を変えながら何度か繰り返し語られるような配慮がなされている。小主題が十分に理解され、全体の文脈の中に位置づけられれば、映画中に現れる言語表現だけの理解にとどまらず、更に豊かな学習内容が生まれてくることになる。たとえばある小主題に即して解説者の視点から眺め、客観的にナレートしてみたりすることである。また学習にあたっては、小主題の扱いに軽重を決め、ある特定の小主題に限って理解をはかる方法もあると思う。

## 2.2. 構成——場面を中心として

### 2.2.1. 言語場面、言語表現についての扱い

映画での場面や言語表現については、以下の通り扱うことにする。

1. 映画の構成にしたがって、場面を分ける時には、Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ……のようにし、それを更に小場面に分ける時には、Ⅰ—1、Ⅰ—2、Ⅰ—3……のようにする。
2. 言語表現については、文単位で①②……のように通し番号をつける。文を変形引用する時には、' の印をつけ、①' ②' ……のようにする。変形引用がふたつ以上ある時には、'''''の順で' を重ねていく。
3. なおこの映画中に直接現れていない文や語句を例示する時には、〔1〕〔2〕……のように〔 〕付きの番号をつけ、その変形引用には、上記2. の場合同様' 印をつける。文や語句を束にして例示する時も出現順に通し番号にする。

以下の言語表現の扱いについては、文単位の認定に多少問題のあるところもあるが、ここでは積極的にはその問題に触れない。なお①②……の文番号は、使用語彙一覧で引用される文やシナリオ全文でのものと共通である。

### 2.2.2. 言語場面、言語表現についての解説

すでに述べた通りこの映画には、学習項目の理解をはかるため幾つかの小主題（小事件）が盛り込まれている。その全体的枠組となっているのは、「客を迎える」「訪問する」という二者の行為である。客を迎えるのは伊藤という寮に住む男子学生であるが、この伊藤の行動が中心に描かれ、その伊藤を訪ねる秋子の行動が挿入されるという形で、二人の行動を追いつつ全体が展開していく。伊藤は客が来るので、「買物」をし、「そうじ」をし、「紅茶茶碗」を「借り」て、「用意」をする。秋子は寮へ向かう途中「おみやげ」に「ケーキ」を買うが、ついうっかり電車内にそれを「忘れ」てしまう。「忘れ物」は無事戻ってくるが、大分遅れて寮に着く。秋子は、今度は寮の炊事室で伊藤が借りた「紅茶茶碗」をついうっかり「割っ」てしまう。

以上のような小主題がこの映画を構成している。映画利用にあたっては、

小主題についてあらかじめある程度の説明をしておくという方法も考えられる。もちろんそれぞれの小主題は、映像を通じて理解できるように描写されている。ただ伊藤の「買物」だけは、時間的制約のため描き込まれていない。映画の流れに即しながら、以上の小主題の展開を場面の観点から整理してみると、十二の場面をみることができる。伊藤と秋子の行動に分けて表にしてみると、以下のようなになる。

場	面	伊藤の行動	秋子の行動
I	寮の中庭で	買物からの帰り。おぼさんとあいさつ。	
II	伊藤の部屋で(1)	買物の品々を冷蔵庫の上においたり、中に入れたりする。	
III	洋菓子屋で		おみやげのケーキを買う。
IV	伊藤の部屋で(2)	部屋のそうじをしている。友人の大山が来る。	
V	駅で(1)		忘れ物をしたことに気付く。
VI	おぼさんの部屋で	紅茶茶碗を借りる。	
VII	駅で(2)		忘れ物が見つかり、戻ってくることになる。
VIII	伊藤の部屋で(3)	秋子の到着を待っている。友人の鳥井が来る。	
IX	路上で		寮へ向う。
X	伊藤の部屋で(4)	秋子、ようやく到着。伊藤、秋子を迎える。	
XI	洗い場で		紅茶茶碗を落として、割ってしまう。

XII	伊藤の部屋で(5)	秋子、紅茶茶碗を割ってしまったことを伊藤に話す。困る伊藤。
-----	-----------	-------------------------------

ついでながらこの映画は、学習項目の関連性の点からだけではなく、その舞台設定も登場人物も前作「きょうは あめが ふっています」を全くひきつぐものである。そして動詞の導入を扱った「なにを しましたか」の映画舞台の延長でもある。ただ制作上の問題やその他種々の要因があって同じ配役、同じロケ地となっていないため、実際上はその印象が薄い。

### I 寮中の庭で (①～⑨)

ある秋晴れの日曜日といった感じである。おばさんが竹ぼうきで庭のそうじをしているところへ、伊藤が帰ってくる。スーパー・マーケット（以下、「スーパー」と呼ぶ。）で買い物をしたらしく重くふくらんだ紙袋を右手に抱え、そして左手にはきれいに包装された箱を持っている。この箱がケーキの箱であることは、やがて場面Xの⑭でわかることになる。この導入は小主題「そうじ」「買物」の提示であり、また映画中の人物の紹介ともなっている。

向こう向きに庭をはいているおばさんに伊藤が声をかける。

伊藤「①おばさん、そうじですか。」

おばさん「②あら、伊藤さん、お帰りなさい。

③たくさん買物をしましたね。

④お客さんが来るんですか。」

伊藤「⑤ええ。」

おばさん「⑥お部屋のそうじは、してありますか。」

伊藤「⑦まだしてありません。

⑧これからしますよ。」

おばさん「⑨そう。」

①の「(呼びかけ語,) (名)ですか」という文型は、相手の行為、状態、ある特定の所有物等を認めた際、それをことさら話題化して、相手に呼びかけて言うものである。文末の「か」は疑問を表しているが、「(名)です」の部

分は眼前にある事柄・事態をそのまま言っている。したがってわざわざわかりきっていることをきいているわけで、この文型は会話の開始や展開にあたって用いられる。「か」に代えて「ね」で言うこともある。「ね」の場合には、相手の同調的返答を求めようとする気分が強くなる。またわざわざ確認するという気持で「ね」を用いることもある。伊藤は、おぼさんの「そうじ」という行為を話題化した。ここでは会話の開始であり、またあいさつの一種である。

①では、「おぼさん」が呼びかけ語である。「おぼ」は自分の父母の姉妹を指し、父母の兄弟にあたるのは「おじ」である。「おじさん」「おぼさん」という呼称は、「おじ」「おぼ」に相当する年齢範囲の人でそれ相当の親しさのある人一般に用いられるが、ただ年齢範囲や親しさの程度が問題になる。また一方で「おじさん」「おぼさん」にはくだけた俗な響きがあり、この呼称を嫌がる傾向もあるようである。親しさのあまりない場合やあらたまった場合には、姓に「さん」等を付けて呼びかける。こちらの方はもちろん、使用範囲のもっと広い一般的な言い方である。ここでの「おぼさん」は、寮の管理人の奥さんと思われる。つまり伊藤が「おぼさん」と呼べる年齢範囲、親しさの程度にある人である。伊藤はふだん世話になっている「おぼさん」を認め、ある適当な距離まで近づいて声をかけたわけである。

①の表現の中心概念となった「そうじ」は、現におぼさんのしている行為で、ここでは庭のそうじである。秋には落葉が散る。これを竹ぼうきではき集める。映画的には、ここで「そうじ」をするという行為の概念が指示された。「そうじ」は、今度は場面Ⅳで部屋の「そうじ」として実現化する。

ここで、おぼさんの行為自体を客観的に叙述してみると、

〔1〕 おぼさんは、庭のそうじをしています。

となる。そしておぼさんが庭のそうじを終えた後の状態は、

〔2〕 庭のそうじがしてあります。

と表現される。〔1〕で「を」格で示された「庭のそうじ」が、〔2〕では「が」格となり、「する」に「てある」が伴う。〔2〕は動作主体である「おぼさん

を文中に含まないが、だれかによって事前になされたというニュアンスを持ち、その行為の結果が続いていることを表している。これが「\_\_\_\_てある」の基本的な意味・用法である。この「\_\_\_\_てある」は、意志的な働きかけを表す動作性の他動詞を取る。そして「ある」は状態動詞だから、「\_\_\_\_てある」は現在のことを、「\_\_\_\_てあった」は過去のことを表わす。

なお上記[1]については後出の⑭を、また[2]については、⑥⑦のやりとりや、④⑨、⑩を通して具体的な場面の中で理解させたい。

①に対する②もあいさつことばである。伊藤から声をかけられたお婆さんは、彼の存在に気付き、彼の方へと振り向く。②の「あら」は、自分の目に入らなかった事柄・事態に気付いた時、口から出る感動語で、女性に用いられるのが一般的である。後出する⑰や⑱と比較参照してほしい。「あら」は、その事柄・事態を不審に思い口にする時には上り調子のイントネーションになる。これについては第六課解説書(p. 17)を参照のこと。

②の「伊藤さん」は呼びかけ語。映画的には、名前を呼ぶことで主人公の紹介ともなっている。②の「お帰りなさい」は、外出して戻ってきた人を迎えて言うあいさつことばで、外出から戻った人のあいさつことばは、「ただいま」である。外出する際には、外出する人が「行ってきます」(⑫)、見送る人が「行ってらっしゃい」(⑬)と言う。

この場面で買物から帰ってきた伊藤の存在にお婆さんの方が先に気付き、また声をかけていると次のようになる。

①' 伊藤さん、買物ですか／ね。

②' ええ、お婆さん、ただいま。

さて中味をつまったスーパーの紙袋や包装されたケーキの箱を持っている伊藤の様子を見て、お婆さんは会話を展開した。それが③である。ここでもうひとつの小主題「買い物」が話題化されたが、「買物」そのものについては、映像として提示されていない。ただ伊藤の様子から、二種類の「買物」をしていることがわかるだけである。もしスーパーでの「買物」の実際をこの映画の中に組み込むことにすると、この映画はずっと長いものになってし

もう。洋菓子屋での「買物」は、秋子がケーキを買う形で場面Ⅲで描かれる。

お婆さんは「買物」を話題化したがるが、こうした場面ではさりげなく「いいお天気ですね」等と言ったりもする。

ところで③を①と同じ文型で言うと、

③' たくさんの買物ですね。

となる。①の文型は、表現文型として応用範囲が広い。

③に続いてお婆さんは更に会話を展開する。③の「買物」を前提にして④では、来客の話へと発展する。④の「んですか」は、伊藤のたくさんの「買物」を根拠にしてその納得的説明を求めようとするものであるが、この④も会話の流れの中ではあいさつことばの一種ともなっているのだから、きかれた方がそれに積極的説明を与える必要が特にあるわけではない。⑤のような返事、あるいはことばを濁して「ええ、まあ。」(後出する⑤を参照のこと。)等と返事する。積極的に答える(あるいは答えたい)ような場合には、

⑤' ええ、実は、秋子さんが来るんです。

のように答える。この④⑤'のやりとりは、やがて場面Ⅳで展開するものであるが、ここでは映画中にもうひとりの人物が登場することが「客」という言葉で暗示されるにとどまり、それ以上に会話は発展しなかった。

買物の荷物を抱えた伊藤は軽く返事をしたまま立ち去ろうとするが、お婆さんは今度は部屋のそうじに話題を転じて伊藤に声をかける。それが⑥である。⑥の理解には先にあげた[1][2]の理解が前提となる。もし⑥が、

⑥' お部屋のそうじは、しましたか。

であるなら、部屋のそうじという行為を伊藤がすでに完了したかどうかを問うているだけであるが、⑥の方はすでに説明したように伊藤によって部屋のそうじという行為がなされ、その結果の状態が続いているかどうかを問うことになる。⑥' ⑥とも「部屋のそうじ」が主題化され、「は」を伴っているが、それぞれに対応する骨格的な文は次のようである。

⑥'' お部屋のそうじをしましたか。

⑥''' お部屋のそうじがしてありますか。

そしてこの⑥'''に対する応答文は次のようである。

⑦' ええ、もうしてあります。

⑦'' いいえ、まだしてありません。

⑦' の「もう」は現在その状態になっていることを示す副詞で、⑦'' の「まだ」は「ない」と呼応して、ある状態が実現していないことを言う副詞である。先にあげた[1][2]の理解を前提にして⑥'''の質問、それに対する⑦'⑦''の応答の理解が「\_\_\_\_てある」の学習の第一歩となる。ついでながら⑥''に対する応答文は次のようである。

⑦''' ええ、もうしました。

⑦'''' いいえ、まだしていません。

⑦'''' の否定応答の言い方に注意すること。

⑥⑦の質問・応答はやがてバリエーション化され、③③、④④で繰り返される。その時にはすでにそうじが済んでいるので、肯定応答となっている。

続く⑧は、⑦への追加説明である。⑥の質問に⑦で否定応答したが、それは現在の状態説明であり、⑧は今後の自分の行為について述べたものである。「します」は未来の行為を表すが、ここでは意志の表明でもある。⑧の「これから」は、時間的に言って今から後のことで、後出する⑨の「今から」に同じである。ただ「今から」は、「今から二時間前」「今から二時間後」のように時間量（あるいはそれ相当語句）を指定すれば、時間的に先（未来）のことばかりでなく、前（過去）のことも表すことができる。また単に時間が今ではない先のことを言う場合には「後で（②②、②④）」が用いられ、ある設定された時間的基準から間をおかずにと言う場合には「すぐ（③①、③②）」が用いられる。なお③③、③②に後出する「さっき」や「さきほど」（「さっき」のていねいな言い方）は、時間的に少し前のことを言う。

⑧' 

これから
今から
後で
すぐ

 します。



⑧' さっき  
(さきほど) しました。

なお場面展開の中で⑧をみると、場面IVでその行為の実現進行過程が描かれ、場面VIIの④、場面Xの⑧でその行為の結果状態が描かれる。

以上この場面Iでは、①②のあいさつのとりのかわしの後、買物から帰ってきたらしい伊藤の様子がヒントになって「買物」→「来客」→「部屋のそうじ」と話題が展開した。おぼさんが話題展開の役割を果たしたわけだが、振りかけた伊藤を呼びとめてまで「部屋のそうじ」を話題にしたのは、どうであろうか。よく言えば親切心であるが、場合によってはおせっかいともなるところであろう。ここではどちらかと言えば親切心であり、それほどのおせっかい、あるいは好奇心からでないことは、⑨の軽いうけながしからもわかるところである。

## II 部屋で(1)

部屋に戻った伊藤は、冷蔵庫の上にもずケーキの箱を置き、次にスーパーの紙袋からパックされたインスタント紅茶を、それからみかんを取り出して置く。そして冷蔵庫をあけ、チーズ、肉、ハム、ビールを次々に入れる。客を迎えるにあたっての買物が何であったかが、こうしてはっきりとしてくる。ただその品々は、スーパーや洋菓子屋で買った物として提示されているから、上にあげた言葉の意味がわかりやすく映像化されているというわけではない。たとえば肉は発泡スチロールのトレイ(受け皿)に入れられ、ラップで包装したパックのものである。肉という語から、まずイメージとして浮かべるものを映像として描くのは、こうした場面内ではしにくいことである。別に映像による語彙集が必要となるところである。

さて伊藤の部屋は、学生寮の一室としてはかなり整頓され、きれいである。またかなり大型の冷蔵庫を持っていることは、学生としての身分以上かもしれない。ただ学生の寮、下宿への冷蔵庫の普及は、もはや一般的となっ

ているともいえるだろう。

この場面Ⅱには、せりふがないが、伊藤の行動そのものをていねいに映像化している。これは意図的にしたことであり、できればこれを練習問題用等として活用したい。まず伊藤の行為そのものに即してみていくと、次のような表現ができる。

〔3〕 ケーキ／紅茶／みかんを冷蔵庫の上に置きました。

〔4〕 チーズ／肉／ハム／ビールを冷蔵庫の中に入れました。

〔5〕 ビールを冷やします。

まず「\_\_\_\_てある」の練習である。〔3〕〔4〕〔5〕を伊藤によってなされ、その結果状態が続いているという観点からみるとそれぞれ次のような表現になる。

〔3〕' ケーキ／紅茶／みかんが冷蔵庫の上に置いてあります。

〔4〕' チーズ／肉／ハム／ビールが冷蔵庫に入れてあります。

〔5〕は、ビールが冷えた時点になれば、

〔5〕' ビールが冷やしてあります。

となる。次に「\_\_\_\_ておく」の練習である。「\_\_\_\_ておく」は、その結果状態を保つ点では「\_\_\_\_てある」と同じだが、ある目的のために、その後のことを考慮して事前に行う、準備するというニュアンスを加える。〔3〕〔4〕〔5〕は、次のようになる。

〔3〕'' ケーキ／紅茶／みかんを冷蔵庫の上に置いておきました。

〔4〕'' チーズ／肉／ハム／ビールを冷蔵庫に入れておきました。

〔5〕'' ビールを冷やしておきます。

「\_\_\_\_ておく」は「\_\_\_\_てある」の場合と同様に意志的な働きかけを表す動作性の他動詞を取るが、両者に全ての動詞が共通であるわけではない。また〔3〕と〔3〕'' を比べるとわかるように「を」格はそのままである。そして「おく」は動作動詞であることから「\_\_\_\_ておく」は未来の動作を、「\_\_\_\_ておいた」は完了した動作を表す。〔3〕'' 〔4〕'' と〔5〕'' を比較されたい。次に買い物の方へ視点を移してみる。

[6] (お客があるので) ケーキ/紅茶/みかん/チーズ/肉/ハム/ビールを買いました。

この[6]に「\_\_\_てある」「\_\_\_ておく」を加えると、

[6]' ケーキ/紅茶/みかん/チーズ/肉/ハム/ビールが買ってあります。

[6]'' ケーキ/紅茶/みかん/チーズ/肉/ハム/ビールを買っておきました。

のような表現が派生してくる。繰り返しの説明になるが、[6]' がある行為結果の状態の説明であるのに対し、[6]'' は来客という事態にそなえての行為である。次の二文のニュアンスの違いを比べられたい。

[7] ケーキ/紅茶/みかん/チーズ/肉/ハム/ビールが買ってあるから、いつお客が来ても大丈夫です。

[7]' ケーキ/紅茶/みかん/チーズ/肉/ハム/ビールを買っておいたから、いつお客が来ても大丈夫です。

「\_\_\_てある」「\_\_\_ておく」の学習は映像の流れの中で、つまり文脈を通して進める必要がある。この場面Ⅱは、その基礎的練習を図るために活用できることを簡単に述べた。

### Ⅲ 洋菓子屋で (⑩~⑬)

映画的な場面転換でケーキの箱が示され、やがてそれが洋菓子屋での買物であるとわかっていく。場面Ⅰで「お客」ということばで暗示された人物と思われる女性が、「おみやげ」用の「ケーキ」を買っているのである。彼女の名前が秋子であることは、次の場面Ⅳで判明する。この場面は、「買物」ということの概念の提示であり、「おみやげ」の理解への伏線であり、女主人公の紹介である。

店員「⑩お待ちどおさまでした。

⑪スプーンを四本、入れておきました。」

秋子「⑫ありがとう。」

店員「⑬どうもありがとうございました。」

⑩は、買物をしてくれた客にその品物を渡す際に、待たせたことをわびて言う慣用的表現。同種のものには、「お待たせしました。」がある。

⑪の「スプーン」はプリン等を食べるためのもので、一般の食事の際に用いられるステンレス製のものとは違い、プラスチック製の小型のものである。ショート・ケーキ等のためには同種のフォークがある。このスプーンは、店員がケーキの箱の中に「入れる」という動作とともに映像的に提示される。⑪の「四本」は、文中で数量を言う時の副詞的用法。これは、第十一課から始まった学習項目で、次の第十三課では同種の用例が更に展開される。

さて⑪の文の理解には、次の二文を前提としたい。

⑪' 店員は、ケーキの箱にスプーンを四本入れました。

⑪'' 店員は、ケーキの箱にスプーンを四本入れておきました。

⑪', ⑪''の基本的な違いについては、場面Ⅱで説明をした通りである。⑪で表現された店員の配慮に客である秋子は、わざわざ御礼のことばを口にす。それが⑭である。⑮は、買物をした客、あるいは店に寄った客が一応用件を済ました際に店員が言う御礼のことば。⑮を言う際に店員は軽く頭を下げる。この「ありがとう」はもちろん、感謝のことばとしてもっと用途が広いものである。

#### IV 部屋で(2) (⑭～⑳)

伊藤は、部屋の入口のドアをあけたまま部屋のそうじをしている。この「そうじ」は、ほうきで部屋をはくという形で示されているが、電気そうじ機を使う方が今や一般的であると言えようか。こうした寮には、共同の電気そうじ機が普通あるものである。ただ伊藤の部屋のような狭いところをていねいに隅々までそうじするには、電気そうじ機よりほうきの方が適しているとも言えよう。

#### IV-1 へやのそうじと来客 (⑭~⑲)

ドアの向こうの廊下を友人の大山が通りかかった。彼は伊藤の部屋の前を通りすぎようとしたが、立ち止まり、そのまま伊藤の部屋の入口に姿を表す。ふだんの伊藤とは様子が違うと思ったからである。幾らかの好奇心がある。

大山「⑭おや、そうじをしていますね。」

⑮だれか来るんですか。」

伊藤「⑯ええ、ちょっとお客が来るんです。」

大山「⑰へえー、だれが来るんです?」

伊藤「⑱秋子さんが来るんです。」

大山「⑲秋子さんですか。」

⑭の「おや」は、意外なことに会ってそれに驚いたり不審に思ったりした時、口から出る感動語。もちろんここでは伊藤が部屋のそうじをしているという事態に出会って、そのつぶやきが口から出たのである。続く「そうじをしている」は、動作・作用の継続・進行を言う表現で、これは、「これからします」と⑧で表現されたことの実現過程である。「\_\_\_している」については、詳しくは第十一課「きょうは あめが ふっています」を参照のこと。この⑭を①と同じ「\_\_\_ですか/ね」の文型で言うと、

⑭' おや、そうじですか/ね。

となる。大山は伊藤の部屋のそうじからたちまち来客のあることを連想し、すぐに話題を展開する。⑮の「\_\_\_んですか」は、伊藤の「そうじ」を根拠にその納得的説明を求めようとするものであるが、⑭から⑮への流れについては④から⑤への流れと比較してほしい。この後、⑱まで「\_\_\_んです(か)」で会話が続くことに注意。「\_\_\_んです」の意味・用法については第十課「もみじが とても きれいでした」の2.3.3.で簡単な説明を加えた。そちらを参照のこと。

大山の⑲の問いに、伊藤は率直に応じ、客があると答えた。⑲の「ちょっと」は、それほど大げさなことではないのだが、といった意味を文全体に添

えている。大山の問いは更に続き、伊藤の答えも具体的になる。⑮⑯の「だれか」→「お客」という関係が、⑰⑱では「だれ」→「秋子さん」という関係に展開する。⑲の大山のことは、大山も秋子を知っていることを表している。ともかくもこれで伊藤の部屋の「そうじ」については、一応納得というところである。

⑳㉑に秋子という名前が出た。場面Ⅲの女性がその人であろう、と映画的には推測できる。この秋子の訪問にそなえての「買物」と「そうじ」であり、また秋子の方は「おみやげ」に「ケーキ」を買った、というのがここまでの展開である。

#### IV-2 ビール、ハム、チーズ (㉒～㉔)

来客がだれであるか知れて、今度は伊藤の方からさきほど買物をした冷蔵庫内のものに話題を転じる。

伊藤「㉒ほら、ビールが冷やしてあります。

㉓ハムもチーズも買ってあります。

㉔後で呼びますよ。」

大山「㉕じゃあ、後で。

㉖楽しみにしていますよ。」

㉒の「ほら」は、相手の注意をある事柄・事態に向けさせようとして口にする感動語。伊藤は、この時わざわざ冷蔵庫をあけてみせる。伊藤は、場面Ⅱで他のものと一緒にビールも冷蔵庫に入れて、冷やそうとしていた。その行為の結果状態が続いている。ここでは、更に「冷やす」(他動詞)、「冷える」(自動詞)の学習にも発展させて考えてみよう。

[8] ビールを冷やす→ビールが冷やしてある(事前の人為のニュアンスがある)→冷やしてあるビール

[9] ビールが冷える→ビールが冷えている(眼前の結果状態をそのまま言う)→冷えているビール

㉖も、「買った」という行為が前提となっている。[6][6]'の説明を参照

のこと。ここで、

㉑' ハムもチーズも買っています。

と言うと、「買う」という行為の継続・進行を言っていることになる。「冷えている」と「買っている」とでは別の様相を表しているわけで、これは「\_\_\_\_ている」の意味・用法の問題であり、詳しくは第十一課の解説を参照のこと。

㉑での「ハムもチーズも」の「も」は、㉑の「ビール」に付け加えてのニュアンスであるが、行為が「冷やす」と「買う」とでは違うため論理的には変とも思えるが、こうした「も」の用法は普通一般である。

なお㉑㉒は、お客があるのでその事態にそなえ、準備して、というニュアンスで言えば、「\_\_\_\_ておく」を用い、

㉑' ビールを冷やしておきました。

㉒'' ハムもチーズも買っておきました。

といえる。〔6〕〔5〕の説明を参照のこと。

㉒の「後で」は、㉑「これから」のところで説明した。単に設定された時間的基準がこれから先の一点であることを言うのである。ここではお客である秋子に来て、食事等という段取りになった時のことである。その時、あなたも「呼ぶ」と言うのである。この「後で」に代えて「これから」「今から」と言うことはできないことに注意。ここで㉒は、どのていど本心で言ったのかという問題がある。せっかく秋子さんが来るのだから、本当は二人だけで過ごしたいのに……、と伊藤が思っているかどうかである。㉒のことは、友達も加えて楽しく過したいという伊藤の素直な気持の表現と取りたい。㉒の「じゃあ」は、一応ここで話を切り上げようとして言ったことばで、会話を終結し、結論を導き出そうとする際に用いられる。後出する㉓、㉔、㉕、㉖を比較参照してほしい。「じゃあ」はていねいに言うと「では」である。「それでは」とか「それじゃあ」とも言う。

㉓の「楽しみにする」は一種の慣用的表現。「楽しみ」は「楽しい」の名詞形で、「楽しい」は、自分が実際にする行為を通しての喜びである。「楽し

みにしている」は、やがてある事が実現することを心待ちにするといった意味である。テレビ等では、「では来週をお楽しみに」と出る。この言い方と「楽しむ」や「楽しんでいる」とを混同しないように注意すること。

## V 駅で(1) (㉔~㉕)

ここでは、秋子の様子が描かれる。この場面の小主題は「忘れ物」であり、もうひとつの学習項目「\_\_\_\_てしまう」を導入するために用意されたものである。この場面は一場面として扱うには長く、前半は電車内の秋子、後半は駅での秋子と二場面に分けるべきところだが、前半には秋子のせりふが何もなく、「忘れ物」の意味・概念を映像的に描くための導入となっているので一場面扱いした。

伊藤の寮へ向かう秋子は、今電車に乗り、座席に座っている。おみやげ用に買ったケーキの箱は網棚の上に置いてある。何か考えごとをしていた秋子は降りる駅に来たが、なかなか気付かず、はっと我に帰り、あわてて降りる。その時網棚に置いた「おみやげ」のケーキのことをすっかり忘れてしまっている。ホームを歩き、改札口の方へと駅の階段を降りかけて、秋子は「忘れ物」をしたことに気付く。この秋子の行為を客観的に描写すると、

[10] 秋子は、忘れ物をしました。

[11] 秋子は、ケーキの箱を忘れました。

のような文が生まれる。[10][11]の動詞述語部には「\_\_\_\_てしまう」形式を用いて、

[10]' 秋子は、忘れ物をしてしまいました。

[11]' 秋子は、ケーキの箱を忘れてしまいました。

ということもできる。[10][11]と[10]'[11]'では動詞述語部や文全体の意味がどう変わってくるであろうか。「\_\_\_\_てしまう」は文脈によっていろいろなニュアンスを加えるが、動詞のアスペクトの点からはある動作が完全に行われる、完了するという意味を表し、また一方で、実現を期待しないような結果になる、不都合な状態になるというニュアンスを加える。前者の動作の完



了については、鈴木重幸（『日本語文法・形態論』、1972、むぎ書房）は、継続動詞（一定の期間継続する動きを表す動詞）の場合には完了を強調し、瞬間動詞（瞬間的な動きを表す動詞）の場合には動作の実現を強調する、と説明している。「忘れる」は瞬間動詞であるから、〔11〕'には「忘れるという行為をしたのだ」という動作実現を強調する意味が加わり、更にその文脈によって、「不都合なことに」「具合の悪いことに」というニュアンスが加わってくる。

ここでは、「忘れ物」の理解を前提として「忘れ物をしてしまう」「忘れてしまう」の理解へと進むことになる。

秋子「㉕あっ……。

㉖すみません。

㉗今の電車に忘れ物をしてしまったんですが……。」

駅員「㉘どんなものですか。」

秋子「㉙ケーキの箱です。」

駅員「㉚わかりました。

㉛すぐ連絡します。」

㉕の「あっ」は、忘れ物をしたことに気付いた一瞬、思わず口から出たことば。秋子は、近くにいた駅員にすぐその事情を話す。㉗は、今の自分の状態を説明して、「が」の後は言わず、言いさしのままになっている。駅員の反応を待つ、という気持もある。㉗の「今の電車」は、今乗ってきた電車、今降りた電車のことである。㉗「忘れ物をしてしまった」については上記〔10〕'〔11〕'の説明を参照のこと。ここには、つい、うっかり、等のニュアンスがある。㉗の「\_\_\_\_\_んです」は、今の自分の状態を根拠に説得的説明をしようとするもの。

㉘㉙は、「忘れ物」が何であるかをめぐっての駅員と秋子との問答である。ここではそのやりとりが極めて単純に描かれているが、実際は、忘れた物がどんなものであるか、また電車のどこに忘れたか（どの車両のどの辺の網棚か）等についての細かなやりとりがある。ずっと後になって気付いた場合に

は、遺失物を保管する駅まで取りにいくことになる。電車内での忘れ物はずいぶん多く、中でも傘の忘れ物は、一、二位を争うほどだそうである。またあっと驚くような珍しい忘れ物もずいぶんあるという。

㊸の「わかる」は秋子からの申し出、つまりどんな忘れ物をしたのかが明らかになり、理解が得られたということ。㊹の「連絡する」は別のものの間につながりをつけることで、ここでは電車のとまる次の駅へこちらの事態を知らせることである。

秋子は、ケーキの箱が戻ってくるまで待っていなくてはならない。場合によっては、遺失物を保管する駅まで取りに行かなくてはならなくなる。伊藤との約束の時間に遅れてしまうことになりそうだ。それも困ったことだが、せっかくの「おみやげ」の「ケーキ」がこのまま紛失してしまうことだってある。つい、うっかり、「忘れ物をしてしまった」ことは、実に実現を期待しないような結果を招いてしまったわけである。

## VI おばさんの部屋で (㊺～㊻)

場面は、また寮の方に戻る。買物をし、部屋のそうじをした伊藤は、今度はおばさんの部屋（管理人室であろうか）に「紅茶茶碗」を「借り」に来ている。この「紅茶茶碗」は、おばさんの私物か寮の共同使用のものかそのどちらかであろうが、ここでははっきりしない。伊藤は、たぶん中庭でおばさんと立ち話をした時に「紅茶茶碗」を「借り」たいということとも話しておいたのだろう。

この場面は、伊藤が「紅茶茶碗」をいろいろ手にしながら選んでいるところから始まる。伊藤は、これでひととおり今日の来客にそなえての「用意」を終えることになる。この場面の主題は、「紅茶茶碗」を「借りる」「用意する」である。まず次の文例を学習させたい。

〔12〕 紅茶茶碗を借りました。

〔12〕' 紅茶茶碗が借りてあります。

〔12〕'' 紅茶茶碗を借りておきました。

⑫ [12]'''紅茶茶碗を借りてしまいました。

[13] 紅茶茶碗を用意しました。

[13]' 紅茶茶碗が用意してあります。

[13]'' 紅茶茶碗を用意しておきました。

[13]''' 紅茶茶碗を用意してしまいました。

#### VI-1 紅茶茶碗を借りる (㊸~㊾)

部屋の奥にあるソファに座っておばさんは編み物をしている。「紅茶茶碗」を選ぶ伊藤の様子を見るおばさんの目は、自分の実の子供を見る目のようである。借りる「紅茶茶碗」を決めた伊藤がおばさんに声をかける。

伊藤「㊸おばさん、じゃあ、これを借ります。

㊸「よろしいですか。」

おばさん「㊹どうぞ。」

伊藤「㊾他のは、ここに置いておきます。」

㊸の「これ」は、「紅茶茶碗」(のセット)である。「紅茶茶碗」が二つ以上であることから寮の友達も呼ぶ気であることがわかる。「借りる」は、他人の事物を一時的に使わせてもらうこと。おばさんの立場からみれば「貸す」であり、借りた物をその人に戻すことは「返す」である。伊藤は「紅茶茶碗」をあれこれ点検し、「これ」を選び、借りることに決めた時、㊸を口にした。「じゃあ」がここでは一応の結論に達し、それを言い出す際の導入語となっている。㊸は、許可を求める時の言い方。「よろしい」は、「いい」の改まった言い方である。㊹の「どうぞ」は、相手に何かを勧める表現で、ここでは「どうぞ御遠慮なく」とか「どうぞお使い下さい」の意である。

㊾の「他のは」は、「他の紅茶茶碗」である。「置く」「置いておく」については場面Ⅱの説明を参照のこと。ただこの「置く」は行為を加えて事物にその位置を占めさせるの意味か、事物をそのままにするの意味か、微妙なところがある。またこの「\_\_\_\_ておく」は、おばさんが後で片づけやすいようにと事後の事態を予想して「置いておく」のか、「置いたままにする/しておく」

のような放置の意味なのか、なかなか決め難いところがある。

## VI-2 ヘヤのそうじと紅茶茶碗 (36~40)

おばさんは、わざわざお盆を持って伊藤のところへやって来る。お盆も貸してあげようとしたわけである。その方が「紅茶茶碗」が運びやすいだろう、という親切心である。

おばさん「36はい。

37伊藤さん、お部屋のそうじは、しましたか。」

伊藤「38ええ、もうしてしまいました。」

おばさん「39そうですか。」

伊藤「40じゃあ、これ、借ります。」

36の「はい」は相手の注意を喚起し、事物を提示する際の呼びかけ語で、ここでは「はい、お盆ですよ。」の意味である。37に「はい、おみやげ。」という用例がある。38に比べると、37には「おみやげ」とわざわざことばにしたい気持がある。この38に回答しようとするれば、「すみません」とか「ありがとうございます」になる。

すぐに話題が部屋のそうじに移る。37の問いもおばさんの親切心からのことばとみてよいだろう。この37に伊藤は次のような応答ができる。

38' ええ、もうしました。

38'' ええ、もうしてあります。

38''' ええ、もうしておきました。

38'''' ええ、もうしてしまいました。

38の「してしまう」は、動作の完了を強調しているものである。同じ例が36にある。40はおばさんの部屋を立ち去る際のことばで、実質的には37の繰り返しである。この40では「これを」と言わず、「これ」と言っていることにも注意。「を」格は会話では「を」を伴わず、言われることが多い。この学習は39でもう一度する。同種の学習に「ぼくは」「わたしは」と言わず、「ぼく」「わたし」と言う用例が39,40にある。この40の「これ」は、「紅茶茶

碗」にお盆が加わったものである。

## VII 駅で(2) (㉑～㉔)

場面Vに続くものである。忘れ物の届くのを待っている秋子のところへ駅員がやってくる。

駅員「㉑ありました、ありました。

㉒すぐこちらに届きますよ。」

秋子「㉓よかった。

㉔ありがとうございました。」

駅員がすぐ連絡をとってくれた結果、ケーキの箱は無事見つかった。㉑の「ありました」の「た」は、事物の存在を今確認したという発見のニュアンスを伴って使われているもので、この「た」の用例は他に、迷子になった子供をさがしあてて「あっ、いた、いた。」等と言うのがある。㉒の「届く」は、送った品物が受取人のところに着くこと。㉓は事態が自分に好都合に展開した時、思わず口から出ることば。この逆が㉔の「困った」である。

伊藤のところへ持っていく「おみやげ」の「ケーキ」が紛失してしまっ  
ては一大事であった。とにかくほっとしたところである。㉔は、駅員の親切に  
対しての御礼のことば。

## VIII 部屋で(3) (㉕～㉗)

伊藤は、なかなかやって来ない秋子を持っている。約束の時間をとくに  
過ぎているのであろう。時計を見たりしながら、どうしたんだろうという表  
情で秋子の到着を待っている。ここでは、秋子がやがてやって来ることが事  
前に十分描かれているので、

〔13〕（伊藤さんは、）秋子さんを待っています。

という「\_\_\_ている」の表現を取り上げることができよう。そして「待つて  
ある」という言い方がないことに注意を向けさせたい。

なおこの場面VIIIは、話題の展開のしかたの点でも同じ寮の友達が現れる点

でも、場面Ⅳに相似させてあるので、対照させながら理解させたい。

### Ⅷ—1 ヘヤのそうじ (④⑤～⑤⑥)

その時、ドアのノックの音がした。ドアのところまで行った伊藤の前に現れたのは、秋子ではなく、友人の鳥井であった。

鳥井「④へへへ。」

伊藤「⑤なーんだ、君か。」

鳥井「⑥そうじは、終わりましたか。」

伊藤「⑦ええ。」

鳥井「⑧ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。」

伊藤「⑨えっ、ええ、まあ。」

④は、あまり上品ではない笑い方である。後々のせりふからわかってくることだが、鳥井はさきほど伊藤の部屋に来た大山から、今日、秋子が伊藤のところへ来ることを聞いていた。④の笑いの中には、僕のドアのノックで秋子さんが来たんだと思ったでしょう、かついでやったのです、という響きがある。秋子が来たのだとばかり思っていた伊藤は拍子抜けしてしまう。⑤の「なーんだ」は、意表外な事柄・事態に出くわしてあきれたり、がっかりしたり、はぐらかされたりした気分になった時、口から出ることば。ここでは「な」を長く引っぱって「なーんだ」と言っているのが、その気分をよく表している。それに呼応して文末の「か」には驚きのニュアンスが含まれる。「ではないか」「じゃないか」という形も使われる。

⑥の「君」は、親しい同輩や後輩である相手を指して言う代名詞。目上の人に対しては用いない。「ぼく」と同様に「君」も男性が用いるのが一般的である。⑥⑦の「ぼく」を参照のこと。ここで「君」の代わりに名前で言うと、

⑥' なーんだ、鳥井(君)か/じゃないか。

となる。⑦で部屋の「そうじ」が話題になる。⑧の問いは、伊藤が部屋のそうじをしていたことを当然知っていて、出てきたものである。むろん鳥井は、

そのことを大山からすでにきいていたことになる。㉔の「終わる」は、ある行為の終了を意味するが、自動詞としても他動詞としても使う（ただ別に「終える」という他動詞がある）。これに対しある動作の開始を言う時には、「始める」（他）、「始まる」（自）が使われる。そして「始める」、「終わる」（「終える」）は動詞の連用形に伴って、ある動作の開始、終了を言う形として用いられる。ここではその学習にも広げていくことができる。

「そうじ」は、「これからする」、「している」、「してしまう」と今まで展開してきたこの映画の大きな小主題であるが、㉑で「そうじ」という動作の行われた後の結果の状態が言及され、また映像で示される。当然のことながら、㉑は「\_\_\_\_してある」の形で言われる。会話の流れの中では、㉑は、㉔の問いと㉒の相手の応答の後に実際、自分の目で見ての表現である。その気分は、㉑の「ほー」がよく表している。この「ほー」は、事柄、事態を目のあたりにしてそれに感心したり、驚いたりした時に口から出るものである。

㉑は、いわば友人の鳥井の好奇心から出てきた表現であるが、それを受けた伊藤の応答は、あまりすっきりした言い方ではない。㉒の「えっ」は、相手のことばをスレートに全部受けとめきれなかった気持を表し、「ええ」は、その後に相手のことばを了承した気持を表し、「まあ」は、まあ、まあ、あるていどにと注釈を加える気持を表している。こうした応答表現は、日本語によくあるものだが、実際の理解にはなかなかむずかしいところがあるかもしれない。

## Ⅷ—2 来客と紅紅茶茶碗の用意 (㉑～㉒)

鳥井は、自分の好奇心から更に話題を展開していく。話題は、部屋の「そうじ」から秋子がかかること、そして「用意」された「紅紅茶茶碗」へと進む。

鳥井「㉑きょう、秋子さんが来るんでしょう。」

伊藤「㉒知っているんですか。」

鳥井「㉓さっき聞きました。」

④は「う、紅茶茶碗が用意してありますね。」

伊藤「⑤ええ、おばさんから借りたんです。」

鳥井「⑥そうですね。」

鳥井が④で部屋の「そうじ」を話題にした時もそうであったが、⑤で秋子の来ることを話題にした時も当然その事前の知識がある。⑤の「んでしょう」は、その事前の知識を根拠に推量的に問うているわけである。⑥の伊藤の応答は、④と同じニュアンスで「なーんだ、(もう)(そんなことまで、)知っているんですか」といった感じである。ここで「知る」とは、見聞等の経験を通じてその結果、そのことについての知識がある、という意味であり、「\_\_\_\_ている」が用いられているのは、鳥井が大山からの話で秋子が来ることをすでに知り(過去の体験)、その知識が今ある、ということを表しているからである。これに対し既出③では、「わかる」が「わかりました」と使われ、「わかっています」とはなっていないことに注意。

この「知る」「わかる」の問題は、金田一春彦が「国語動詞の一分類」(1950、『言語研究』15、『日本語動詞のアスペクト』(1976、むぎ書房)に再録)を書くにあたって問題提起としたものである。金田一の答えは、「知る」が瞬間動詞に属するということである。したがって「知っている」は、「知る」という行為の結果が現在残っていることを表すことになるのだが、単なる状態を表す用法もあることは『動詞+ている』の意味(藤井正、1966、『国語研究室』5、上記『日本語動詞のアスペクト』に再録)で触れられている。なお「知ってある」という言い方のないことに注意。

さて⑦は、

⑦' 知っていたんですか。

と「た」を用いて言うこともできる。⑦と比べると、⑦'には相手の現在の状態を確認するというニュアンスが加わっている。この文脈の中では、⑦よりも⑦'の方がぴったりとおさまるかもしれない。この「た」の用法については、④の「た」の用法とともに注意すること。③は、いわば種明かしである。もちろん先ほど友人の大山から聞いたということである。



ここで鳥井の視点は、再び部屋の内部に移る。そしてテーブルの上に「用意」された「紅茶茶碗」を見る。⑤④の「ほう」は④⑨の「ほう」に同じだが、長く引っぱって言っている分だけ感心したり、驚いたりした気持の深さを表している。⑤④の「紅茶茶碗が用意してある」については、秋子が来ることにそなえて場面Ⅵで「紅茶茶碗」を「借り」ていることを前提にすれば容易に理解がはかられよう。⑤⑤は、⑤④に説明を加えたもの。⑤③④⑩を参照してほしい。

### Ⅷ-3 友人の外出 (⑤⑦~⑤⑯)

ここで今度は伊藤の方が話題を転じる。これは、場面Ⅲで大山に対していた時と同じものである。

伊藤「⑤⑦ほら、ビールも冷やしてありますよ。」

⑤⑧後で来ませんか。」

鳥井「⑤⑨ぼく、今から出かけるんですよ。」

伊藤「⑤⑩残念だなー、でかけてしまうんですか。」

鳥井「⑤⑪ええ。」

⑤⑫じゃあ、行ってきます。

⑤⑬秋子さんによろしく。」

伊藤「⑤⑭ええ。」

⑤⑮行ってらっしゃい。」

⑤⑦については、⑤⑩を参照のこと。別の友人に全く同じことを言ったのである。ただ「ビールも」と「も」を用いたのは、「そうじ」「紅茶茶碗の用意」に加えて、というニュアンスである。ここの「冷やしてある」についても当然場面Ⅱが理解の前提となる。

⑤⑧は、⑤⑩のバリエーションである。この誘いに対して、鳥井は何か前もつての約束でもあるのだろうか、今から「出かける」のだと言う。⑤⑨の「ぼく」は、同輩や後輩が相手である場合に使われる自分自身を指す代名詞。ただ「君」が目上の人を指して言えないのと違って「ぼく」は目上の人の前で

も自分を指して言うことが多くなっているようである。「わたし」は男女とも用いるが、「ぼく」は男性が用いる。㉗で伊藤は秋子に対して自分自身を「ぼく」と言っている。㉘では、秋子が伊藤に対して自分自身を「わたし」と言っている。㉙の「出かける」は、自分の住んでいるところ、あるいは働いているところから何かすることがあって外に出ていくことである。「んです」と根拠づけて説得的に言おうとしているからには、何か別の大事な用事があるのであろう。ここで「ぼくは」と言わずに「ぼく」と言っていることについては、すでに述べた通り㉘の「わたし」や㉘、㉙の「これ」を参照してほしい。会話では、「は」格の「は」もしばしば落ちるという用例である。

鳥井が今から出かけてしまうことを伊藤は残念に思う。㉚の「残念だ」は、せっかく招待しようと思っていたのにそれが実現せず、物足りない気持がすることを言っている。終助詞の「な」は、自分で自分のその気持を確認する気分を表しているが、「なー」と長音で言っているところにその気持の深さが出ている。それに続く「出かけてしまう」は、「出かける」という動作の実現を強調して言っているものだが、「残念だなー」と言うことばと結びついて、その動作の実現が伊藤にどういう意味をもたらすかを示している。

㉚' 鳥井さんが出かけてしまうので、伊藤さんは残念でした。

㉚'' 鳥井さんは出かけてしまう。(伊藤に残念だ、という気持がある)

ここでまた㉙㉚を例にして、次のような文例が考えられる。

{ ㉙' ぼく、これから帰ります。

{ ㉙''' えっ、帰ってしまうんですか。

{ ㉙'' ぼく、もう晩御飯を食べました。

{ ㉙'''' あっ、そう、もう食べてしまったんですか。

㉚から㉚までは、別れる際のあいさつのやりとりであるが、㉚の「秋子さんによろしく」は、「よろしくお伝え下さい」であり、自分の好意ある気持を伝えてほしい、ということである。

## IX 路上で

無事に届いた「おみやげ」の「ケーキ」を右手にしっかり抱えて、秋子は伊藤の寮に向かって歩いている。伊藤を待たせてあるわりには、のんびりと歩いている。電話でもかけておけばよかったのと思う。ちょうど伊藤が外出する鳥井を見送ったのと同時刻のころのことだろう。この場面は映画的には秋子の様子を知らせるつなぎの場面ではあるが、「おみやげ」の「ケーキ」は、次の場面へと発展する小主題のひとつとしての意味を持っている。

この場面も学習に利用するならば、

[14] 秋子は、おみやげを手を持っています。

という表現を利用することができる。「持つ」には、手にぶらさげるとか、抱えるとかいう意味の他に、所有しているという意味もあるが、ここでは当然前者であって、「持っている」という形で現在の状態を言い表す。「持つ」には、「持つてある」という言い方はない。これについては、森田良行は、「文法——動作・状態を表わす言い方」(1968、『講座日本語教育』4, 早大研究)で「持つ」は、本来状態を示す動詞であるから「作用の結果を示す言い方は意味的に不可能」なのだ、と説明している。今までにも「待つてある」、「知ってある」という言い方はないと注を付け加えてきたが、この「持つ」にも注意。

## X 部屋で(4) (66~86)

やっと秋子が到着した。伊藤がいそいそと秋子を迎える。この場面では、今までの小主題「忘れ物」「おみやげ」「そうじ」「紅茶茶碗」が語られることになる。

### X-1 秋子に来る (66~73)

ドアをあけると、向こうに立っているのは秋子だった。

秋子「66 こんにちは。」

伊藤「67 やあ、いらっしゃい。」

⑥⑧遅かったですね。

⑥⑨さあ、どうぞ。」

秋子「⑦遅くなってしまって、ごめんなさい。

⑦⑩電車でこれを忘れてしまったんです。

⑦⑪はい、おみやげ。

⑦⑫ケーキです。」

⑥⑦は、あいさつ語。⑦の「こんにちは」は、日中、人に会ったり人を訪ねたりした時のあいさつ語であるが、普通毎日顔を合わす人には言わない。また目上の人に対しては用にくい。その点「おはよう(ございます)」と違う。⑦の「やあ」は、男性がごく親しい相手に言う呼びかけ語で、軽いあいさつの役割も兼ねる。続く「いらっしゃい」は、客を迎えた際の歓迎の気持を表すあいさつ語。ていねいな形は、「いらっしゃいませ」である。

⑧「遅かった」は、約束の時間に対してである。秋子は、忘れ物をしたため時間に大幅に遅れて着いたのである。伊藤が⑧を口にしたのは、「何かあったんですか」と言おうとする気持からで、別に秋子をせめようとしているわけではない。⑨は、相手の行動を促す表現で、そのことばにしたがって秋子は部屋の中に入ってくる。秋子は座りかけながら、遅れて着いたことをわび、その理由を説明する。⑩の「遅くなってしまう」には、申し訳ないことをしたというニュアンスがあり、それが「ごめんなさい」につながっていく。⑪の「忘れてしまう」には、つい、うっかり大事なものを「忘れる」という動作を実現したという響きがある。⑪の「これ」は映像で提示される通り当然「おみやげのケーキ」で、「これ」は、⑫で「おみやげ」、⑬で「ケーキ」と説明される。⑬の「はい」は事物提示の際の呼びかけ語で、⑭の「はい」に同じ。

⑫「おみやげ」の「みやげ」は、ここでは人の家を訪問する時に持っていく贈り物を指している。「みやげ」はまた、旅行先から買ってくる(家人、近所の人、また会社の人に)その土地の産物を指して言う。日本では「みやげ」物をする習慣が強い。もっとも秋子が足しげく伊藤の寮に通ようになった場合、その度にいちいち持っていくというようなことはない。

## X-2 おみやげのケーキ (74~80)

場面Ⅰ，Ⅱからわかる通り伊藤もケーキを買っておいた。

伊藤「74えっ、ほくもケーキを買っておいたんですよ。

75ほら。」

秋子「76あらー、ほんとう。」

伊藤「77まあ、友達を呼んで、みんなで食べましょうか。」

秋子「78そうですね。」

伊藤「79じゃ、紅茶を入れますよ。

80さあ、どうぞ。」

74の「買っておく」については、場面Ⅱで説明した。ここで冷蔵庫の上においてあったケーキの箱を伊藤は手にとってみせる。これは、秋子が「おみやげ」に持ってきたものと全く同じ包装紙に包まれている。買った場所は別と考えられるから、偶然同じチェーン店で買ったということになる。あるいは、そのチェーン店は、洋菓子がおいしいと評判の店で伊藤も秋子もわざわざ同じチェーン店で買ったと考えられる。75の「ほら」は、聞き手にある事物・事態に注意を向けさせようとする時に言う呼びかけ語。こうしてケーキの箱は、二つになってしまった。

76の「あら」は、その事態に驚いて秋子の発した感動語。続く「ほんとう」も感動語の一種のように使われている。偽りや冗談ではなく、確かにその通りだ、という秋子の気持の表現である。

その事態（ここでは、それが特に深刻な、というわけではないが）をおさめ、相手の立場を楽にしようと伊藤は話題を展開する。その気持が77の「まあ」に表されている。伊藤は友達を呼ぶ約束もしてあるのである。だからみんなで食べようという提案をする。秋子はその提案に納得し、78で同意応答する。伊藤は、そこでひとまず紅茶を入れることにする。80は、部屋に入ったままであった秋子にともかくもテーブルに向かって座り直すことをすすめたものである。

### X-3 へやのそうじと紅茶茶碗 (㉑～㉞)

秋子は、やっと余裕をとり戻す。きれいに「そうじ」された部屋の様子や「紅茶茶碗」がテーブルの上に置かれていることによりやく気付く。

秋子「㉑ずいぶんきれいにしていますね。」

伊藤「㉒さっき、そうじをしたんですよ。」

秋子「㉓あら、きれいな紅茶茶碗ですね。」

(少し間があって、紅茶茶碗が汚れていることに気づき、)

㉔わたし、洗ってきます。」

伊藤「㉕あっ、すみません。」

秋子「㉖いいえ。」

㉑の「きれいにしてある」は、すでに説明してきたように「きれいにした」結果の状態である。「きれいにそうじする」を土台とした方が理解させやすいかもしれない。㉒は、それに対する説明。「えっ、まあ」(前出㉑) 等とも答えるところである。

秋子の視線は次にテーブルの上に行く。そこには、「紅茶茶碗」が置かれている。㉓の「あら」には意外な物を発見して、というニュアンスがある。ここで㉔にも応答しようとするれば、㉕㉖のやりとりの時のように、

㉕' さっき、おばさんから借りたんです。

と答えることになろう。秋子は、きれいな「紅茶茶碗」のひとつを手にとってみる。するとまだ洗ってないらしく、「茶碗」の中が汚れていることに気付く。用意のいい伊藤も「茶碗」を洗うことまでは気付かなかった、とつい秋子は笑ってしまう。そこで秋子は「茶碗」を洗ってこようと思いつく。㉔の「洗う」という動作は、場面XIで実現化されている通り、水等を用いて汚れを落とす、という動作である。「洗ってくる」は、「洗う」という動作の後でこちらへ戻るといことである。この「\_\_\_てくる」は、第十一課にもあったが第十四課で中心学習項目として扱われる。

お客である秋子が「紅茶茶碗」を洗うという行為をすることは、伊藤と秋子の関係がかなり親密であることを物語っているようである。また秋子は共

同炊事場がどこにあるか、つまり伊藤の寮の内部も知っているようであるから、よく伊藤の寮に遊びに来ていることになる。

## XI 共同炊事場で(87)

共同炊事場の洗い場で秋子は、「紅茶茶碗」を洗っている。そして洗い終わった「紅茶茶碗」を置こうとした瞬間、別の「茶碗」にひっかけ、落として、「割っ」てしまう。これは、伊藤がおばさんに「借りた」大事な「紅茶茶碗」である。困ったことになってしまった。この小事件がこの映画の最後の小主題である。

秋子「87あっ。」

87の「あっ」は驚きの声。「忘れ物」をしたことに気付いた瞬間にも同様の声を発していた(25)。ここでナレーションを入れると、

[15] 秋子は、紅茶茶碗を落としてしまいました。

[16] 紅茶茶碗を割ってしまいました。

のような表現が生まれる。両者ともある瞬間の行為が実現して、予期しないことが起きた、まずいことになったというニュアンスを加えている。

## XII 部屋で(5)(88~92)

秋子は「割れた」「茶碗」の破片を手にして、伊藤の部屋に戻ってくる。秋子「88すみません。

89これ、割ってしまったんです。」

伊藤「90えっ、割ってしまった……。

91あっ、困ったな……。」

秋子「92すみません。」

89は91と同じに言えば、「これ、割ってしまっ、ごめんなさい。」である。89の「割ってしまった」は、伊藤にとっては全く予想外の出来事である。そこで90の「割ってしまった」というおうむ返し表現が出てくる。91は、そうした事態に直面して出てきたひとり言的表現である。「困る」は動詞であ

るが、こうした精神作用を表す動詞の中には「た」を伴って単に今の状態を言う用法がある。「驚いたな。」「ああ、あきれた。」等である。今の伊藤の状態は、他者が予期しない不都合な行為をしたため「困ってしまう」という状態である。

〔17〕 秋子が紅茶茶碗を割ってしまい、伊藤は困ってしまいました。

㊸の「すみません」は、秋子にとって何回めの「すみません」であろうか。

これで一応この映画は終りとなるが、実際には、まだまだ話の続くところである。まず第一に、「紅茶茶碗」を「割っ」てしまったことについておばさんに謝罪しなくてはならない。まあ、それが済んだ後で友達を呼んでの小パーティということになる。その辺までストーリィを發展させても「\_\_\_\_である」「\_\_\_\_ておく」「\_\_\_\_てしまう」の学習項目をいっぱい盛り込むことができよう。実際の利用にあたっては、この映画の後篇を学習者に演じさせてみたりするのも面白かろう。

ここで、この映画での伊藤と秋子の関係も気になるところである。伊藤の寮にまでやってくる関係である。それも初めてでないことは、伊藤の友人の大山や鳥井が秋子のことをよく知っていて、また秋子は、伊藤の寮では「紅茶茶碗」を洗いに洗い場へさっと行けることからわかることである。ただおばさんへの紹介は、まだ済んでいないのかもしれない。とすると、「茶碗」を「割っ」てしまった謝罪をしなくてはならない今が秋子を紹介するいいチャンスかもしれない。よく考えてみれば、二人だけで会おうとするなら、外で会えばいいわけであって、友達も呼んでいっしょに過ごそうというオープンな気持が今の伊藤にある。これは、大山や鳥井を誘ったことからよくわかる。決してことばだけで誘ったわけではないことは、「紅茶茶碗」を「借り」た時のことからわかるといえよう。



### 3. この映画の学習項目の整理と練習問題

この映画には、すでに述べた通り幾つかの小主題が盛り込まれていた。そのひとつを取り上げてみても、5分の映画の主題に十分なりえるものであった。実際の利用にあたっては、ある小主題を特に取り上げ、それをめぐって学習を進めることもよいであろう。小主題が幾つも盛り込まれた一番の理由は、「\_\_\_てある」「\_\_\_ておく」「\_\_\_てしまう」を同時に主要学習項目としてこの映画の中に組み入れようとしたところからきている。「\_\_\_てある」と「\_\_\_ている」の関係をもっといねいに取り上げ、それに「\_\_\_ておく」の学習を加えて一課分とし、「\_\_\_てしまう」は別に取り上げた方が学習量の面からは適切であったかもしれない。しかしこのことは、この映画を利用する時の学習段階や利用方法とも関係することなので、実際の利用にあたっての教授者の配慮をお願いしたい。

この映画では、映画中に表れた言語表現だけに注目すると、上記主要学習項目のうち「\_\_\_ておく」の扱いが十分ではなかったといえそうである。2.2.2.で説明したように画像を利用し、そこにナレーションを加える等して、その発展的理解をはかってほしい。なお「\_\_\_ておく」については、この基礎篇の中で再度取り上げてみたいと思っている。またそれぞれの小主題についても、それをバリエーション化しながら、今後作成される映画の中に生かしていきたい。

以下2.2.での説明と重なるところもあるが、「\_\_\_てある」「\_\_\_ておく」「\_\_\_てしまう」に簡単な解説を加えることにする。まずこの映画中に出た動詞について、「ている」「てある」「ておく」「てしまう」の接続が可能かどうか、一覧表にしておく。(○は、可。×は、不可。)

	「___ている」	「___てある」	「___ておく」	「___てしまう」
ある	×	×	×	×
いる	×	×	?	○ ?

届く	○	×	×	○
なる	○	×	○	○
来る	○	×	○	○
でかける	○	×	○	○
困る	○	×	×	○
わかる	○	×	○	○
知る	○	×	○	○
入れる	○	○	○	○
洗う	○	○	○	○
割る	○	○	○	○
食べる	○	○	○	○
冷やす	○	○	○	○
借りる	○	○	○	○
呼ぶ	○	○	○	○
聞く	○	○	○	○
買う	○	○	○	○
忘れる	○	○	○ ?	○
そうじ(を)する	○	○	○	○
用意(を)する	○	○	○	○
買い物をする	○	○	○	○
忘れ物をする	○	○	○ ?	○
たのしみにする	○	?	○	○

なお「そうじをする」に「\_\_てある」が伴うと、「そうじがしてある」となる。「用意をする」「買い物をする」「忘れ物をする」も同じようになる。

これについては、3.2.で説明を加える。

### 3.1. 「\_\_\_\_てある」について

すでに2.2.でたびたび触れたように「\_\_\_\_てある」は、ある動作が終わった後その結果の状態が続いていることを表している。

[17] 秋子は、紅茶茶碗を洗いました。

[18] 紅茶茶碗が洗ってあります。

[17]の結果の状態が[18]である。つまり[18]は、秋子によってなされた動作の結果が現在の状態である、という意味を表している。この点で受け身の表現と通じるところがあるが、[18]はその文中に秋子を含めて言うことはできず、単に結果状態のみを表現する。この場合、[17]で「を」格で示された「紅茶茶碗」は、「が」格となる。また[17][18]の「紅茶茶碗」を主題化し言えば、次のようになる。

[17]' 紅茶茶碗は、洗いました。

[18]' 紅茶茶碗は、洗ってあります。

「\_\_\_\_てある」は、対象物に意志的な働きかけをする動作性の他動詞を取る。したがって、「台風のすぎさったあと、大きな松の木がたおしてあった。」のような表現はないと、鈴木重幸(『日本語文法・形態論』,1972,むぎ書房)は、指摘している。この「\_\_\_\_てある」の学習には、日本語の自動詞、他動詞の理解が大きな前提となっている。その理解の後に「\_\_\_\_てある」を取りうる動詞と取りえない動詞の識別を学習しなくてはならない。森田良行は、『本が置いてある』と『本を置いてある』(1971,『講座正しい日本語・5 文法編』)でその動詞例をあげている。「\_\_\_\_てある」を取る動詞例の中から基本的な動詞を拾ってみると、

変える, 決める, 比べる, 調べる, 捨てる, 立てる, 並べる, 集める, 出す, 返す, 直す, 残す, 洗う, 買う, 使う, 作る, 取る, 切る, 計る, 脱ぐ, 置く, 書く, 焼く, 拭く

等がある。2.2.では「待つ」「知る」「持つ」は「\_\_\_\_てある」形式にならない

いと注を加えたが、上記論文では他に次のような動詞例があげられている。

連れる、眺める、(道を)まちがえる、迎える、信じる、思い出す、  
歌う、笑う、渡る

「てある」が自動詞に伴って使われる場合もある。「眠ってある」「休んである」等がその例であるが、西尾寅弥(「テイルとテアル」、『講座現代語6 口語文法の問題点』, 1964, 明治書院)は、これについて「いわゆる自動詞であっても、その効果が人間の内部に存続することを表わすようなばあいには、テアルのつくことがある」と説明している。

この「\_\_\_てある」の意味を更に詳しく分析したものには、森田良行『本が置いてある』と『本を置いてある』(『講座・正しい日本語・5 文法編』, 1971, 明治書院)、高橋太郎「すがたともくろみ」(1976, 『日本語動詞の aspekto』, むぎ書房)、吉川武時「現代日本語動詞の aspektoの研究」(同左)等がある。たとえば、高橋は「\_\_\_てある」の意味として三種のものをあげている。それぞれ、(1)目に見えるような形での状態、(2)放任の状態、(3)準備のできた状態、である。この映画に出てきた「\_\_\_てある」をこの基準によって分類してみると、

- (1)……ビールが冷やしてある、ハムとチーズが買ってある、そうじがしてある
- (2)……用例なし
- (3)……紅茶茶碗が用意してある

ということになりそうである。ただ(1)であげた用例は、この映画の文脈の中では「準備のできた状態」ともとれるし、(3)の用例も「紅茶茶碗」が眼前にあるので、(1)の例とすることもできそうである。用例のなかった(2)については、高橋の例を借ると次のようである。

[19] その仕事は彼にまかせてあります。

なお「\_\_\_てある」の「ある」は、「おく」や「しまう」と違って状態動詞である。したがって、「\_\_\_てある」は現在の状態を言い、「\_\_\_てあった」は過去の状態を言うことに注意。

ここで「\_\_\_\_てある」と「\_\_\_\_ている」の意味・用法を比べてみたい。第十一課「きょうは あめが ふっています」では主要学習項目のひとつとして「\_\_\_\_ている」を取り上げたが、そこでは「\_\_\_\_ている」の二つの意味・用法が大きな学習項目となっていた。それぞれ、(1)動作・作用の進行、(2)動作・作用の結果の状態、である。この(2)が「\_\_\_\_てある」の意味・用法と大きく関係している。2.2. では次のような例をあげた。

[20] ビールが冷えています。(「冷える」自動詞)

[21] ビールが冷やしてあります。(「冷やす」他動詞)

前者の例で「冷える」は瞬間動詞であるから、「\_\_\_\_ている」形式で動作・作用の結果の状態を言っていることになる。後者の例では、「冷やす」は対象物に働きかける意志性の動作動詞で、「\_\_\_\_てある」形式により動作・作用の結果の状態を表すことになる。この両者のニュアンスの差は、[20]がその場における事実の状態をそのまま描いているのに対し、[21]では度々述べてきたように事前に人為が加えられた(誰かがした)結果の状態であるというところにある。

[22] 肉を買っています。

[23] 肉が買ってあります。

前者の例では、「買う」は継続動詞である。したがって「買っている」は、動作・作用の継続・進行を表している。後者は、[21]で説明した場合と同様のニュアンスを持つ表現である。この「\_\_\_\_ている」「\_\_\_\_てある」の関係については、森田良行が「文法——動作・状態を表わす言い方」(『講座 日本語教育 4』, 1968, 早大語研)で自動詞、他動詞の分類に着目して次のようにまとめている。

～を・他動・ている	— A 窓をあけている。	} 継続・進行
	— B 雨が降っている。	
～が・自動・ている	— C 山がそびえている。	} 状態を表す
	— D 窓があいている。	
～が・他動・てある	— E 窓があけてある。	} 作用の結果の現存

上の例の「冷える」「冷やす」や森田の例文中にある「あく」「あける」のように自動詞、他動詞が対立している場合には、それぞれに「\_\_\_\_ている」「\_\_\_\_てある」形式を用いることで近似した意味合いの表現ができることが多いが、自他の対立のない場合には他動詞を受け身の形にして「\_\_\_\_てある」形式にする。もう一度森田良行（『基礎日本語』, 1977, 角川書店）の図を借りると、

自動詞・ている……………	}	↔	他動詞・てある
他動詞・受身・てある……			

のような関係になる。たとえば「書かれている↔書いてある」のようなものがその例である。

今述べてきたような「\_\_\_\_ている」, 「\_\_\_\_てある」形式の意味関係については、この映画ではほとんどとりあげられていないので、教授者は学習者の学習段階にあわせてそれなりの発展的学習を考えていってほしい。

さて「\_\_\_\_てある」の意味・用法に関して問題となることについて、二つだけ簡単に触れてみたいと思う。一つは、「が\_\_\_\_てある」「を\_\_\_\_てある」の問題である。佐久間鼎は、『現代日本語の表現と語法』（1963, 厚生閣）で「\_\_\_\_ている」「\_\_\_\_てある」の意味・用法を説明した上で、「なほその際の助詞の用法も注意すべきで、『橋をかけてある』といふやうないひ方は、正式のものとは認められません。」と付け加えている。西尾寅弥も上記論文（1964）で「ガを受けるのが本来であろう」としている。ただ西尾は、「ヲを受けた実例も時として存在する」と説明を続け、「ガとヲをおきかえにくいばあいや、おきかえるとセンテンスの中の重点の置き所、ニュアンスが変ってくるばあいもある」と述べている。こうした例については、十分な検付が必要なところである。

高橋太郎（1969, 上記論文）は、「を\_\_\_\_てある」となることもある場合として三種のものをあげているが、高橋も「『～をしてある』になることがある」ととらえているわけで、「が\_\_\_\_てある」が「正式なもの」「本来」的なものという立場に立っていると考えられよう。

こうした立場と大きく違ったものに森田良行(1968, 1971, 1972)がある。森田は、「が\_\_\_\_\_である」と「を\_\_\_\_\_である」では意味・用法が異なるとする。森田(1971)は、「本が置いてある」と「声を掛けてある」を例にして「同じ『～である』でも、前者は対象物の状態に、後者は主体の行為の完了に重点がある。『が～である』『を～である』はまったく異なった発想に由来する別形式の文であり、文法的事実が相違する」とまで述べている。上に引用した西尾のような指摘(「おきかえにくいばあい」「おきかえると(略)ニュアンスが違ってくるばあい」)もあり、この問題は、「が\_\_\_\_\_たい」「を\_\_\_\_\_たい」等とともに十分検討してみる必要があるであろう。

次の問題は、「そうじする」「そうじをする」のように「(名詞)する」「(名詞)をする」の二つの言い方ができるものを「\_\_\_\_\_である」形式に変換するとどうなるか、という問題である。次の二例を比べてみよう。

[24] 部屋をそうじする→部屋がそうじしてある

[25] 部屋のそうじをする→部屋のそうじがしてある

[25]の「部屋のそうじ」で「部屋」と「そうじ」は、どういう関係にあるかという点、永野賢(『現代語の助詞・助動詞——用法と実例——』, 1951, 国語研報告3)の「の」の分析にしたがえば、「部屋」が「客語」, 「そうじ」が「動作」という関係で結ばれていることになる。この「の」の用法は、「結びつけられる二つの体言のうち、後者が動詞の連用形またはサ変動詞の語幹となる体言(主として漢語)の場合」に見られる。「の」で結ばれる前者の名詞が「動作の主語」の場合もある。

今度は「そうじをする」の方を見ると、たとえば鈴木重幸(1972)は、「を」の機能として「勉強をする」を例にあげて、「形式的な意味をあらわす動詞の内容をしめす働き」があるとしている。とすると、意味的には一語となることである。[25]では、「客語」である「部屋」が「の」格で示され、意味的には一語的である「そうじをする」の「を」格が「が」格となる例である。他には次のような例がある。

[26] 紅茶茶碗を用意する→紅茶茶碗が用意してある

[27] 紅茶茶碗の用意をする→紅茶茶碗の用意がしてある

ここでは[25][27]をも標準的な言い方として認めたが、これには異論もある。渡辺義夫は『『～している』との関連における『～してある』』（1969、『福島大学教育学論文集』21号）で『戸がしめてある』と同じほどの完全さで『掃除がしてある』とは考えにくい。実際、文脈の強い支えがない限り、使われないだろう」と述べている。果たしてそうであろうか。渡辺は続けて「普通には、『この部屋は掃除がしてある』のように、一動詞的で、動作の結果は『掃除』について述べられているのではなく、『部屋』について述べられていると言うべきだろう。」と述べている。意味から考えていくと渡辺の言う通りであるが、動作の対象ではない「そうじ」や「用意」に「がしてある」が伴い、実質上の動作の対象である「部屋」や「紅茶茶碗」を「の」格で示す[25][27]も一般的な用法だと思われる。これについても今後更に分析を加えてみる必要があろう。

### 3.2. 「\_\_\_\_ておく」について

すでに2.2.でも説明したように「\_\_\_\_ておく」には、ある目的のためにその後のことも考慮に入れて事前に行うという意味合いが含まれる。

[28] 秋子は、紅茶茶碗を洗いました。

[29] 秋子は、紅茶茶碗を洗っておきました。

[28]は単に完了した動作を言っているのに対し、[29]では紅茶茶碗を洗った後の事態を考慮に入れての事前の動作なのである。また次の、

[30] 紅茶茶碗が洗ってあります。

と[29]を比べると、[30]では誰かの働きかけで実現した結果状態を単に述べているだけだが、[29]はその働きかけの結果に重点を置いている表現である。ここで[30]では「紅茶茶碗」が「が」格であり、[29]では「を」格であることに注意。また「\_\_\_\_ておく」の「おく」は、「ある」が状態動詞であるのとの違って動作動詞であるから、「\_\_\_\_ておく」は未来の動作・作用を、「\_\_\_\_ておいた」は過了した動作・作用を表すことに注意。



「ておく」は意志的な働きかけを表す動作性の他動詞に付くが、取りうる動詞は「てある」より広い。なお、この働きかけの度合いについては、吉川武時の「現代日本語のアスペクトの研究」(1976)では、次のような表をあげている。

	対 象	例	意志性
ておく	を	なわとびのなわをかけておく。	強
てある	を	なわとびのなかをかけてある。	中
	が	なわとびのなわがかけてある。	弱
ている	が	なわとびのなわがかかっている。	なし

「\_\_\_てある」形式が自動詞をとる場合には、次のような例がある。「眠っておく」「泳いでおく」「遊んでおく」「寝ておく」等。これらは、森田良行(1977)があげている例だが、「行為の蓄積が可能な場合」と説明されている。

この「\_\_\_ておく」には、上に述べたような意味の他に次のような用いられ方があるようである。

[31] すこし替えておいた。(放任)

[32] うるさいから、まだそとであそばせておけ。(放任)

[33] 夕方ごちそうがでるので、おやつを食べないでおこう。(とりあえずの処置)

[34] この試合は、わざとまけておいた。(ことさらする動作、しかたなくする動作)

[31]は森田(1977)から、[32][33]は鈴木(1972)から、[34]は高橋(1976)から引用した。

これらは、「\_\_\_ておく」のもともとの意味と極めて近いものではあるが、ある場面設定のもとにその適切な用例を学習しておくことが必要であろう。

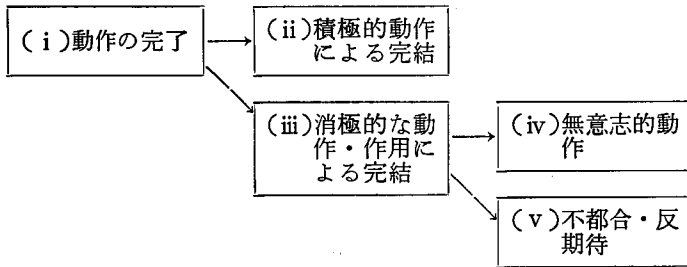
### 3.3. 「\_\_\_てしまう」について

「\_\_\_てしまう」形式は、どのような動詞をとるかで二つの意味・用法に分かれるとアスペクト研究の面から早く認めたものに、金田一春彦の「日本語動詞のテンスとアスペクト」(1955, 『名古屋大学文学部研究論集X 文学4』)がある。この論で金田一は、継続動詞に「てしまう」が伴う場合を「終結態」と呼び、瞬間動詞に「てしまう」が伴う場合を「既現態」と名付けた。前者は、「ある動作・作用が完全に行われる」、つまり「完了する」という意味を持ち、後者は、「その動作・作用がかりそめでなく本当に行われる」、つまり「本当に実現する」という意味を持っているとする。鈴木重幸(1972)もこの路線を踏襲して「\_\_\_てしまう」を解説している。しかし、これだけで「\_\_\_てしまう」を説明し切ったことにならない。金田一も鈴木もその表現に伴うニュアンスの説明を加えている。金田一春彦は、別の論文「国語動詞の一分類」(1950, 『言語研究』15)で次のような説明をした。

「〔継続動詞+「てしまう」〕の形は多く用いられ、この場合は『完全に』『終りまで』の意を表わす。(略)ほかにその動作・作用が行われて、もとの状態に戻るあてがない、取り返しのつかない事態を招く、意をも表わす場合があり、(略)これはしかして〔瞬間動詞+「～しまう」〕はこの後の方の意味(略)にのみ用いられる。」

金田一のこの説明は、〔継続動詞+「～しまう」〕は終結態であるが、他にプラス $\alpha$ の意味も表し、〔瞬間動詞+「～しまう」〕は、プラス $\alpha$ の方の意味のみを表す、と読むことができる。鈴木も実例をあげながら、そこに伴うニュアンスの説明を加えている。高橋太郎(1976)は、このプラス $\alpha$ のニュアンスを特に取り出して「～しまう」の三つめの用法とした。三つの用法とは、(1)終了、(2)実現、(3)期待外、としたうちの(3)であるが、「(2)か(3)かわからないものがある」と注を加えた。

吉川武時(1976)は、「\_\_\_てしまう」に五つの意味を認め、「アスペクト的」「アスペクト＝ムード的」「ムード的」の三段階に分け次のような図で示した。



アスペクト的

アスペクト・ムード的

ムード的

ここで森田良行(1977)が「\_\_\_てしまう」の意味・用法としてあげているものを二つ付け加えておきたい。

○『『た』を伴うことによって“すでに時間的に遅すぎる”手遅れの意味となる。』

[35] この紅茶茶碗を割ってしまいました。

○「他人が期待に反する行為、不都合な行為をした場合に“困ることがすでに起こった”の意味で用いる。』

[36] 秋子さんが、おばさんから借りた紅茶茶碗を割ってしまいました。

(伊藤にとって困ることが起こった。)

「\_\_\_てしまう」は、森田の説明によると「本来、好ましからざる事態の招来を表す言い方なので、(略)『私は試験がよく出来てしまった。』などとは言わない」。吉川は、「\_\_\_てしまう」に伴う表現価値を「アスペクト的」なものから「ムード的」なものへの移行の中でとらえたが、森田は「好ましからざる事態の招来」を「本来」の言い方としていることに注意したい。

ここでは、「\_\_\_てしまう」の文法論を更に展開するゆとりはないのだが、日本語教育の立場からは、表現者がこの形式を使いこなせることを考えていなくてはならない。「\_\_\_てしまう」は、確かに動作の完了、実現を表すが、それに関しては、「\_\_\_し終わる」や完了、過去を表す「\_\_\_た」の意味・用法との相違を通して表現文法論を考えていく必要がある。上に引用

した諸論文を参照してほしい。また「\_\_\_てしまう」には、その文脈においての表現者の感情表現が伴うので（森田の言う通り、その意味はある一定の方向をめざしているが）、用い方を誤まるとちぐはぐな言い方になったり、尊大な印象を与えたりする。学習者が日本語を日本語らしく使うためには、「のです」の場合と同様にこの「\_\_\_てしまう」も学習のかなり早い段階からなじんでおく必要があるようである。

「\_\_\_ている」「\_\_\_てある」「\_\_\_ておく」「\_\_\_てしまう」も、日常の会話の中では縮約して言われることが多い。それぞれの縮約形は次の通りである。

[37] 今日も、雨が降ってる。（「ている」→「てる」）

[38] ビールが買ってあっから、後で飲もう。（「てある」→「てあっ」：  
かなり俗語的）

[39] 紅茶茶碗が用意してあんで、もう大丈夫だ。（「てある」→「てあ  
ん」：かなり俗語的）

[40] おみやげのケーキを忘れちゃった。（「てしまう」→「ちゃう」）

[41] 紅茶茶碗を割っちゃった。（「てしまう」→「っちゃう」：かなり俗  
語的）

### 3.4. 練習問題

まずこの映画に出た動詞を主にして「\_\_\_ている」の言い方を練習し、続いて「\_\_\_てある」「\_\_\_ておく」「\_\_\_てしまう」の言い方の練習に進むことにする。

A-1 例にならって、言いなさい。

（例）そうじをする→いま、そうじをしています。

a. ビールをかう   b. ちゃわんをあらう   c. ケーキを食べる   d. こ

うちゃをいれる e. スプーンをよういする f. ビールをひやす

A-2 例にならって、言いなさい。

(例) そのこと、しる→もうそのことは、しています。

a. そのこと、きく b. そのこと、わすれる c. おみやげ、とどく  
d. いとうさん、でかける e. いとうさん、くる

B-1 例にならって、「てあります」「てありません」「てありました」「てありませんでした」を付けて言いなさい。

(例) ヘヤをそうじする→ヘヤがそうじしてあります/ありません/ありました/ありませんでした。

a. ビールをかう b. ちゃわんをあらう c. きょうかしょをおく  
d. こうちゃをいれる e. ビールをひやす f. こうちゃをよういする  
g. かんじをかく

B-2 例にならって、言いなさい。

(例) ヘヤ、ろうか、そうじする→ヘヤもろうかもそうじしてあります。

a. ビール、チーズ、かう b. スプーン、フォーク、あらう c. ほん、ノート、つくえのうえにおく d. ハム、にく、れいぞうこにいれる  
e. ビール、ワイン、ひやす f. こうちゃ、こうちゃぢゃわん、よういする  
g. てがみ、につき、かく

B-3 例にならって、言いなさい。

(例) ヘヤ、ろうか、そうじする→ヘヤはそうじしてありますが、ろうかはそうじしてありません。

a. ビール、ケーキ、かう b. こうちゃぢゃわん、スプーン、あらう  
c. きょうかしょ、ノート、つくえにおく d. ビール、チーズ、れいぞうこにいれる  
e. ビール、ワイン、ひやす f. こうちゃ、こうちゃぢゃわん、よういする  
g. につき、てがみ、かく

B-4 例にならって、問いに答えなさい。

(例) そうじは、してありますか。 → { ええ、もうしてあります。  
いいえ、まだしてありません。  
これからします。

- a. ケーキは、かってありますか。
- b. ちゃわんは、あらってありますか。
- c. こうちは、いれてありますか。
- d. ビールは、ひやしてありますか。
- e. ケーキは、よういしてありますか。
- f. てがみは、かいてありますか。

B-5 例にならって、言いなさい。

(例) ビール、ひえる、ひやす → { ビールがひえています。  
ビールがひやしてあります。

- a. ドアー、しまる、しめる
- b. もん、あく、あける
- c. くるま、とまる、とめる
- d. でんき、つく、つける
- e. でんき、きえる、けす
- f. にっき、かかれる、かく

B-6 例にならって、言いなさい。

(例) { へやをそうじする → へやがそうじしてある。  
へやのそうじをする → へやのそうじがしてある。

- a. スプーンをよういする、スプーンのよういをする
- b. シャツをせんたくする、シャツのせんたくをする
- c. しゃしんをせいりする、しゃしんのせいりをする
- d. ピアノをれんしゅうする、ピアノのれんしゅうをする
- e. おくれてつくことをれんらくする、おくれてつくことのれんらくをする

C-1 例にならって、「ておきます」「ておきました」「ておきませんでした」を付けて言いなさい。

(例) へやをそうじする → へやをそうじしておきます / おきました / お

きませんでした。

a. ケーキをかう b. コーヒーをいれる c. おさをあらう d. おひるをたべる e. ビールをひやす f. じしよをかりる g. ともだちをよぶ h. かいものをする

C-2 例にならって、言いなさい。

(例) げんかん、にわ、そうじする → げんかんもにわもそうじしておきました。

a. ハム、にく、かう b. ちゃわん、おさ、あらう c. ビール、ワイン、ひやす d. きょうかしよ、じしよ、かりる e. いたうさん、あきこさん、よぶ f. ニュース、てんきよほう、きく g. コーヒー、こうちゃ、よういする

C-3 例にならって、言いなさい。

(例) げんかん、にわ、そうじする → げんかんはそうじしておきました、にわはそうじしておきませんでした。

a. みかん、ケーキ、かう b. おさ、フォーク、あらう c. ビール、ワイン、ひやす d. きょうかしよ、じしよ、かりる e. いたうさん、あきこさん、よぶ f. でんわばんごう、じゅうしよ、きく g. コーヒー、こうちゃ、よういする

C-4 例にならって、問いに答えなさい。

(例) そうじは、しておきましたか。 { ええ、さっきしておきました。  
いいえ、まだしてありません。あとでしておきます。

a. ケーキは、かっておきましたか。  
b. ちゃわんは、あらっておきましたか。  
c. ビールは、ひやしておきましたか。  
d. じしよは、かりておきましたか。  
e. あきこさんは、よんでおきましたか。  
f. レコードは、きいておきましたか。

g. スプーンは、よいしておきましたか。

D-1 例にならって、「てしまいます」「てしまいました」を付けて言いなさい。

(例) そうじる→そうじてしまいます/しまいました。

a. くる b. でかける c. こまる d. かう e. あらう f. わる  
g. たべる h. ひやす i. かりる j. よぶ k. きく l. わすれる  
m. わすれものをする

D-2 例にならって、言いなさい。

(例) ヘヤをそうじる→ヘヤをそうじてしまいました。

a. ともだちがくる b. あきごさんはでかける c. いたうさんはこまる  
d. じしよをかう e. ちゃわんをあらう f. おさらをわる g.  
おひるごはんをたべる h. おみやげをわすれる

D-3 例にならって、言いなさい。

(例) ヘヤ、ろうか、そうじる→ヘヤもろうかもそうじてしまいました。

a. いたうさん、あきごさん、くる b. いたうさん、あきごさん、でかける  
c. いたうさん、あきごさん、こまる d. きようかしよ、じしよ、かう  
e. スプーン、フォーク、あらう f. ケーキ、みかん、たべる  
g. ニュース、てんきよほう、きく h. じゅうしよ、でんわばんごう、わすれる

D-4 例にならって、問いに答えなさい。

(例) そうじは、してしまいましたか。 { ええ、もうしてしまいました。  
いいえ、まだしてありません。  
すぐしてしまいます。

a. おみやげは、かってしまいましたか。



- b. おさらは、あらってしまいましたか。
- c. スプーンは、よういしてしまいましたか。
- d. てがみは、かいてしまいましたか。
- e. しんぶんは、よんでしまいましたか。

E-1 例にならって、問いに答えなさい。

- (例) もうそうじは、しましたか。
- ええ、しました。
  - ええ、してあります。
  - ええ、しておきました。
  - ええ、してしまいました。

- a. もうおみやげは、かいましたか。
- b. もうちゃわんは、あらいましたか。
- c. もうじしょは、としょかんからかりましたか。
- d. もうよういは、しましたか。
- e. もうかいものは、しましたか。

E-2 例にならって、問いに答えなさい。

- (例) もうそうじは、おわりましたか。
- ええ。
  - ええ、もうしてあります。
  - ええ、さっきしておきました。
  - ええ、もうしてしまいました。

- a. もうかいものは、おわりましたか。
- b. もうぺんぎょうは、おわりましたか。
- c. もうれんしゅうは、おわりましたか。
- d. もうしゅくだいは、おわりましたか。
- e. もうしゃしんのせいは、おわりましたか。

その他の学習項目についても簡単に練習問題を出しておく。

F-1 順に言いなさい。

はい、  

こうちゃ
コーヒー
ビール
ジュース
チーズ
ハム
スプーン
フォーク

 です。

F-2 順に言いなさい。

I : はい、ケーキです。

R :  

えっ
ほー
へえー
あら
まあ
なーんだ
ざんねんだな
よかった
こまったな

 , ケーキですか。

G-1 順に言いなさい。

おばさん
あきこさん
おや
ほー
へえー
あら
まあ

 , そうですか。

G-2 順に言いなさい。

あきこさん、

そうじ
かいもの
わすれもの
べんきょう
しゅくだい
ピアノのれんしゅう

ですか。

H 順に言いなさい。

ちょっと

おきゃくがくる
ともだちをよぶ
ビールをひやす
としょかんへでかける
がっこうへいく

んです。

I-1 例にならって言いなさい。

(例) よぶ → { I : あとでよびますよ。  
R : ジャあ、あとで。たのしみにしていますよ。

a. くる	b. いく	c. とどける	d. かう	e. はなす	f. おしえる
-------	-------	---------	-------	--------	---------

I-2 例にならって、言いなさい。

(例) ケーキをたべる, こう  
      ちゃをいれる → { I : ケーキをたべましょうか。  
R : そうですね。  
I : ジャ, こうちゃをいれますよ。

a. ごはんをたべる, おちゃをいれる	b. ビールをのむ, チーズをきる
c. テレビをみる, プログラムをみる	d. ラジオをきく, プログラムをみる
e. ともだちもよぶ, あきこさんをよぶ	

J 例にならって、言いなさい。

(例) だれかくる, おきゃくがくる, だれがくる, あきこさんがくる →

I : おや, だれかくるんですか。  
 R : ちょっとおきゃくさんがくるんです。  
 I : へえー, だれがくるんです。  
 R : あきこさんがくるんです。  
 I : ほう, あきこさんがくるんですか。

- a. だれかよぶ, ともだちをよぶ, だれをよぶ, あきこさんをよぶ  
 b. なにかかう, おみやげをかう, なにをかう, ケーキをかう  
 c. なにかとしょかんからかりる, しょうせつをかりる, なにをかりる, なつめそうせきのしょうせつをかりる  
 d. どこかへでかける, そこまででかける, どこへいく, ほんやへいく

最後に総合練習の問題を出しておく。

K 例にならって, 言いなさい。

(例) そうじをする → { I : おや, そうじがしてありますね。  
 R : えっ, ええ, ちょっとそうじをしたんですよ。  
 I : ああ, そうですか。

- a. ビールをかう b. ちゃんをあらう c. てがみをかく d. まどをふく e. がくをかける

L-1 例にならって, 言いなさい。

(例) ケーキ, かう → { I : はい, ケーキです。  
 R : あらへえー }, ケーキですか。  
 I : ええ, ぎっきかっておいたんですよ。  
 R : そう。

- a. じしょ, かりる b. ビール, ひやす c. ノート, よういする  
 d. コーヒー, かってくる e. かざ, もってくる

L-2 例にならって, 言いなさい。

(例) おばさん, そうじ → { I: おばさん, そうじですか。  
R: ええ, ちょっとそうじをしておきます。

a. あきこさん, かいもの b. いたうさん, しゅくだい c. おや, べんぎょう  
d. へえー, ピアノのれんしゅう e. まあ, テニスのれんしゅう

M-1 例にならって, 言いなさい。

(例) ぼく, でかける, ええ, いってきます → { I: ぼく, これからでかけるんです。  
R: えっ, でかけてしまうんですか。  
I: ええ, じゃあ, いってきます。

a. わたし, ほんをかう, へえー, あとで  
b. ぼく, そうじをする, あら, あとでいきます  
c. わたし, かいものをする, なーんだ, あとで  
d. ぼく, しゅくだいをする, よかった, あとでコーヒーをのみましよう  
e. わたし, うちへかえる, ざんねんだなー, あしたきます

M-2 例にならって, 言いなさい。

(例) わる, こまったな → { I: すみません, これ, わってしまいました。  
R: えっ, わってしまった……。こまったな……。

a. おとす, ざんねんだな b. つかう, なーんだ c. かう, へえー  
d. よむ, ほー e. のむ, こまったなー

M-3 例にならって, 言いなさい。

(例) わる → うっかり, わってしまったんです。

a. わすれる b. おとす c. かう d. でかける e. わすれものをする

#### 4. 参考文献

- 井上和子 1976 「時の解釈」『変形文法と日本語（下）』 大修館
- 金田一春彦 1950 「国語動詞の一分類」『言語研究』15（金田一春彦編  
1976 『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房 に再録）
- 1955 「日本語動詞のテンスとアスペクト」『名古屋大学 文学  
部研究論集』X（文学4）（同上のものに再録）
- 1957 「時・態・相および法」『日本文法講座1 総論』  
明治書院
- （編）1976 『日本語動詞のアスペクト』 むぎ書房
- 久野 暲 1973 「状態性と自制性」『日本文法研究』 大修館
- 佐久間章 1967 「人代名詞の社会心理学的考察」『言語科学』3
- 佐久間鼎 1936 『現代日本語の表現と語法』 厚生閣
- 鈴木重幸 1972 『日本語文法・形態論』 むぎ書房
- 高橋太郎 1969 「すがたともくろみ」『教育科学研究会文法講座テキスト』  
（『日本語動詞のアスペクト』に再録）
- 1978 「『も』によるとりたちの形の記述的研究」『国立国語研  
究所報告 62』
- 寺村秀夫 1969 「活用語尾・助動詞・補助動詞とアスペクト——その1  
——」『日本語・日本文化』1 大阪外国語大学留学生別科
- 1973 「テンス・アスペクト・ボイス」『日本語と日本語 教育  
——文法編』（『国語シリーズ』別冊2） 文化庁
- 長野 賢 1951 『現代語の助詞・助動詞——用法と実例——』（『国立国語  
研究所報告 3』）
- 西尾寅弥 1964 「テイルとテアル」『講座現代語6 口語文法の問題点』  
明治書院
- 野村雅昭 1969 「近代語における已然態の表現について」『佐伯梅友博士  
古稀記念国語学論集』 表現社

- 堀口和吉 「“テイル” “テアル” の表現」『日本語・日本文化』5 大阪外国語大学留学生別科
- 三上 章 1953 『現代語法序説』 刀江書院
- 森田良行 1968 「動作・状態を表わす言い方」『講座日本語教育』4 早稲田大学語学教育研究所
- 1971(a) 「動作の起こり方を表わす語について——『てしまう, ておく, てみる, た』の用法」『講座日本語教育』7 早稲田大学語学教育研究所
- 1971(b) 「『本が置いてある』と『本を置いてある』」『講座正しい日本語5——文法編』 明治書院
- 1977 『基礎日本語——意味と使い方』 角川書店
- 吉川武時 1973 「現代日本語動詞のアスペクトの研究」『Linguistic Communications』9 Monash 大学 (『日本語動詞のアスペクト』に再録)
- 渡辺義夫 1969 「『～している』との関連における『～してある』」『福島大学教育学部論集』21号

# 資 料



## 資料1. 使用語彙一覧

これは、この映画中に言語表現として現れた全ての語について一覧表にしたものである。資料2.のシナリオ全文同様、教材として活用できることも考慮してかな（ひらがな、かたかな）書きにしてある。

1. 見出し語はアイウエオ順に配列し、そこにその使用文例を全て書き出した。
2. 見出し語の認定については、初級日本語教育の立場に立っている。
  - 2-1. 接頭辞「お」や、接尾辞「さん」「ほん(本)」は、見出し語として取り上げている。ただし「おみやげ」等や、「おばさん」等は、そのまま見出し語に立っている。
  - 2-2. 数詞は、助数詞と切り離して見出し語に立っている。
  - 2-3. 動詞は、終止形を見出し語にしている。サ変複合動詞は、「する」を切り離して二語扱いにしている。
  - 2-4. 形容動詞は、「\_\_\_な」の形を見出し語にしている。
  - 2-5. 「です」に前接する「ん」は、一語扱いにして見出し語にしている。
  - 2-6. 「おかえりなさい」等、慣用的表現として扱ったものは、そのまま見出し語にしている。
  - 2-7. 接続助詞「て」は、ここでは動詞部分に含め見出し語にしていない。
3. 見出し語の語義、活用変化、他の語との結びつき等に基づいて下位分類する場合には、(1)(2)……のようにした。
  - 3-1. 「そうじ」等は、名詞である場合とサ複合動詞になる場合で下位分類した。
  - 3-2. 「これ」は、その意味・用法によって下位分類してある。
  - 3-3. 動詞は、まず本動詞としての用法と補助動詞としての用法で大きく二分した。《本動詞の場合》「ます形」であるか、「\_\_\_て」の形

であるかで下位分類し、また常体での言い方は、一語扱いにし別の分類にした。(補助動詞の場合) 補助動詞が違えば下位分類してある。

ただし、その意味・用法の違いによる下位分類はしていない。

- 3—3. 「です」は、それに伴う終助詞の種類、また「です」か「んです」であるかにより下位分類してある。
- 3—5. 助詞「か」「が」「から」「は」等は、その意味・用法によって下位分類してある。また「ん」の場合は、それに上接する品詞の別、活用別の別で下位分類してある。
4. 「ます」「ました」については文例の列挙を省略し、文番号だけを示した。ただし「ありました」の「ました」は、今までにない用例なので略さなかった。「ません」「ましょう」は省略していない。
5. 使用文例の文頭には、①②……の数字がつけてある。これはシナリオでの文通し番号であり、この解説書全体に共通のものである。同一見出し語内では、この順に文例を提出した。(1)(2)……と下位分類した場合にも、その分類内で同一の提出順をとっている。全くの同一文については通し番号を横に並べ、引用を一回ですませた。
6. 見出し語の横には〔 〕で当用漢字の範囲内で漢字を示し、またその横には( )で語の使用回数を示した。

あきこ〔秋子〕(4)

- ⑱ あきこさんがくるんです。
- ⑲ あきこさんですか。
- ⑳ きょう、あきこさんがくるんでしょう。
- ㉑ あきこさんによろしく。

あっ(4)

- ㉒ あっ……。
- ㉓ あっ、すみません。
- ㉔ あっ。
- ㉕ あっ、こまったな……。

あと〔後〕(3)

- ㉖ あとでよびますよ。
- ㉗ じゃあ、あとで。
- ㉘ あとでできませんか。

あら(3)

- ㉙ あら、いとうさん、おかえりなさい。
- ㉚ あらー、ほんとう。
- ㉛ あら、きれいなこうちゃぢゃわんですね。

あらう〔洗う〕(1)

- ㉜ わたし、あらってきます。

ありがとう(3)

- ㉝ ありがとう。
- ㉞ どうもありがとうございました。
- ㉟ ありがとうございました。

ある(10)

- (1)㊱ ありました、ありました。
- ㊲ ありました、ありました。
- (2)㊳ おへやのそうじは、してありますか。

- ⑦ まだしてありません。
- ⑩ ほら、ビールがひやしてあります。
- ⑫ ハムもチーズもかってあります。
- ⑭ ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。
- ⑮ ほーう、こうちゃぢゃわんがよういしてありますね。
- ⑯ ほら、ビールもひやしてありますよ。
- ⑰ ずいぶん、きれいにしてありますね。

いいえ (1)

- ⑱ いいえ。

いってきます [行ってきます] (1)

- ⑲ ジャあ、いってきます。

いってらっしゃい [行ってらっしゃい] (1)

- ⑳ いってらっしゃい。

いとう [伊藤] (2)

- ㉑ あら、いとうさん、おかえりなさい。
- ㉒ いとうさん、おへやのそうじは、しましたか。

いま [今] (2)

- ㉓ いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。
- ㉔ ぼく、いまからでかけるんですよ。

いらっしゃい (1)

- ㉕ やあ、いらっしゃい。

いる (3)

- (1)⑭ おや、そうじをしていますね。
- ⑳ たのしみにしていますよ。
- (2)⑳ しっているんですか。

いれる [入れる] (2)

- (1)㉑ ジャ、こうちゃをいれますよ。
- (2)⑪ スプーンをよんほん、いれておきました。

ええ (8)

⑤④⑥②④ ええ。

⑩ ええ、ちょっと、おきゃくがくるんです。

③⑧ ええ、もうしてしまいました。

⑤⑩ えっ、ええ、まあ。

⑤⑤ ええ、おばさんからかりたんです。

えっ (3)

⑤⑩ えっ、ええ、まあ。

⑦④ えっ、ぼくも、ケーキをかっておいたんですよ。

⑨⑩ えっ、わってしまった……。

お (4)

④ おきゃくさんがくるんですか。

⑥ おへやのそうじは、してありますか。

⑩ ええ、ちょっとおきゃくがくるんです。

③⑦ とうさん、おへやのそうじは、しましたか。

おかえりなさい [お帰りなさい] (1)

② あら、とうさん、おかえりなさい。

おく [置く] (4)

(1)③⑤ ほかのは、ここにおいておきます。

(2)⑩ スプーンをよんほん、いれておきました。

③⑤ ほかのは、ここにおいておきます。

(3)⑦④ えっ、ぼくも、ケーキをかっておいたんですよ。

おそい [遅い] (2)

(1)③⑧ おそかったですね。

(2)⑦⑩ おそくなってしまって、ごめんなさい。

おばさん (3)

① おばさん、そうじですか。

③② おばさん、じゃあ、これをかります。

㉟ ええ、おばさんからかりたんです。

おまちどおさま〔お待ちどおさま〕(1)

⑩ おまちどおさまでした。

おみやげ(1)

㉚ はい、おみやげ。

おや(1)

⑭ おや、そうじをしていますね。

おわる〔終わる〕(1)

④⑦ そうじは、おわりましたか。

か(16)

(1)① おばさん、そうじですか。

④ おきゃくさんがくるんですか。

⑥ おへやのそうじは、してありますか。

⑮ だれかくるんですか。

㉘ どんなものですか。

③③ よろしいですか。

③⑦ とうさん、おへやのそうじは、しましたか。

④⑦ そうじは、おわりましたか。

⑤② しっているんですか。

(2)③⑧ あとできませんか。

⑦⑦ まあ、ともだちをよんで、よみんなでたべましょうか。

(3)①⑨ あきこさんですか。

③⑨⑤⑥ そうですか。

④⑥ なーんだ、きみか。

⑥⑩ ざんねんだなー、でかけてしまうんですか。

が(9)

(1)④ おきゃくさんがくるんですか。

①⑥ ええ、ちょっとおきゃくがくるんです。

- ⑰ へえー、だれがくるんです？
- ⑱ あきこさんがくるんです。
- ⑤① きょう、あきこさんがくるんでしょう。
- (2)⑳ ほら、ビールがひやしてあります。
- ④⑨ ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。
- ⑤④ ほーう、こうちゃちゃんわんがよういしてありますね。
- (3)㉑ いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。

かいもの〔買い物〕(1)

- ③ たくさんかいものをしましたね。

かう〔買う〕(2)

- ㉒ ハムもチーズもかってあります。
- ⑦④ えっ、ぼくも、ケーキをかっておいたんですよ。

から(3)

- (1)⑤⑤ ええ、おばさんからかりたんです。
- (2)⑧ これからしますよ。
- ⑤⑨ ぼく、いまからでかけるんですよ。

かりる〔借りる〕(3)

- (1)②② おばさん、じゃあ、これをかります。
- ④⑩ じゃあ、これ、かります。
- (2)⑤⑤ ええ、おばさんからかりたんです。

きく〔聞く〕(1)

- ⑤③ さっき、ききました。

きみ〔君〕(1)

- ④⑥ なーんだ、きみか。

きゃく〔客〕(2)

- ④ おきゃくさんがくるんですか。
- ①⑥ ええ、ちょっとおきゃくがくるんです。

きょう〔今日〕(1)

⑤① きょう、あきこさんがくるんでしょう。

### きれいな (3)

(1)②③ あら、きれいなこうちゃぢゃわんですね。

(2)④⑨ ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。

⑥① ずいぶん、きれいにしてありますね。

### くる [来る] (8)

(1)⑤⑧ あとでできませんか。

(2)④ おきゃくさんがくるんですか。

⑬ だれかくるんですか。

⑬ ええ、ちょっとおきゃくがくるんです。

⑬ へえー、だれがくるんです？

⑬ あきこさんがくるんです。

⑤① きょう、あきこさんがくるんでしょう。

(3)②④ わたし、あらってきます。

### ケーキ (3)

②⑨ ケーキのはこです。

⑦③ ケーキです。

⑦④ えっ、ぼくも、ケーキをかっておいたんですよ。

### こうちゃ [紅茶] (3)

⑤④ ほーう、こうちゃぢゃわんがよういしてありますね。

⑦⑨ じゃ、こうちゃをいれますよ。

②③ あら、きれいなこうちゃぢゃわんですね。

### ここ (1)

③⑤ ほかのは、ここにおいておきます。

### ございました (2)

⑬③ どうもありがとうございました。

④④ ありがとうございます。

### こちら (1)



㊲ すぐ、こちらにとどきますよ。

こまる〔困る〕(1)

㊱ あっ、こまったな……。

ごめんなさい(1)

㊰ おそくなってしまって、ごめんなさい。

これ(5)

(1)㊳ おばさん、じゃあ、これをかります。

㊴ じゃあ、これ、かります。

㊵ でんしゃにこれをわすれてしまったんです。

㊶ これ、わってしまったんです。

(2)㊸ これからしますよ。

こんにちは(1)

㊹ こんにちは。

さあ(2)

㊺㊻ さあ、どうぞ。

さっき(2)

㊼ さっき、ききました。

㊽ さっき、そうじをしたんですよ。

さん(7)

㊿ あら、いとうさん、おかえりなさい。

㊲ おきゃくさんがくるんですか。

㊳ あきこさんがくるんです。

㊴ あきこさんですか。

㊵ いとうさん、おへやのそうじは、しましたか。

㊶ きょう、あきこさんがくるんでしょう。

㊷ あきこさんによろしく。

ざんねん〔残念〕(1)

㊸ ざんねんだなー、でかけてしまうんですか。

## しまう (7)

- (1)㉞ ええ、もうしてしまいました。  
(2)70 おそくなってしまって、ごめんなさい。  
(3)60 さんねんだなー、でかけてしまうんですか。  
(4)27 いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。  
⑦1 でんしゃにこれをわすれてしまったんです。  
⑧9 これ、わってしまったんです。  
⑨0 えっ、わってしまった……。

## じゃ (1)

- ⑦9 じゃ、こうちゃをいれますよ。

## じゃあ (4)

- ②3 じゃあ、あとで。  
③2 おばさん、じゃあ、これをかります。  
④0 じゃあ、これ、かります。  
⑥2 じゃあ、いってきます。

## しる [知る] (1)

- ⑤2 知っているんですか。

## ずいぶん [随分] (2)

- ④9 ほう、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。  
⑧1 ずいぶん、きれいにしてありますね。

## すぐ (2)

- ③1 すぐれんらくします。  
④2 すぐ、こちらにとどきます。

## スプーン (1)

- ①1 スプーンをよんほん、いれておきました。

## すみません (4)

- ②5⑧8⑨2 すみません。  
⑧5 あっ、すみません。

する (14)

- (1)③ たくさんかいものをしましたね。  
⑧ これからしますよ。  
③① すぐれんらしくします。  
③⑦ いとうさん、おへやのそうじは、しましたか。  
(2)⑭ おや、そうじをしていますね。  
②④ たのしみにしていますよ。  
(3)⑥ おへやのそうじは、してありますか。  
⑦ まだしてありません。  
④⑨ ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。  
⑤④ ほーう、こうちゃちゃわんがよいしてありますね。  
⑥① ずいぶん、きれいにしてありますね。  
(4)⑳ いまでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。  
③⑧ ええ、もうしてしまいました。  
(5)㉒ さっき、そうじをしたんですよ。

そう (4)

- ⑨ そう。  
③⑨⑤⑥ そうですか。  
⑦⑧ そうですね。

そうじ [掃除] (7)

- ① おばさん、そうじですか。  
⑥ おへやのそうじは、してありますか。  
⑭ おや、そうじをしていますね。  
③⑦ いとうさん、おへやのそうじは、しましたか。  
④⑦ そうじは、おわりましたか。  
④⑨ ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。  
⑥② さっき、そうじをしたんですよ。

だ (1)

⑩ さんねんだなー、でかけてしまうんですか。

たくさん (1)

③ たくさんかいものをしましたね。

たのしみ [楽しみ] (1)

②④ たのしみにしていますよ。

たべる [食べる] (1)

⑦ まあ、ともだちをよんで、みんなでたべましょうか。

だれ (1)

⑦ へえー、だれがくるんです？

だれか (1)

⑮ だれかくるんですか。

チーズ (1)

⑳ ハムもチーズもかっています。

ちゃわん [茶わん] (2)

⑤④ ほーう、こうちゃぢゃわんがよいしてありますね。

⑧ ⑧ あら、きれいなこうちゃぢゃわんですね。

ちょっと (1)

⑮ ええ、ちょっとおきゃくがくるんです。

で (4)

(1)② あとでよびますよ。

③ じゃあ、あとで。

⑤⑤ あとできませんか。

(2)⑦ まあ、ともだちをよんで、みんなでたべましょうか。

でかける [出掛ける] (2)

(1)⑩ さんねんだなー、でかけてしまうんですか。

(2)⑨ ぼく、いまからでかけるですよ。

でした (1)

⑩ おまちどおさまでした。

でしょう(1)

㉑ きょう、あきこさんがくるんでしょう。

です(25)

(1)㉒ ケーキのはこです。

㉓ ケーキです。

(2)㉔ おばさん、そうじですか。

㉕ どんなものですか。

㉖ よろしいですか。

(3)㉗ あきこさんですか。

㉘㉙ そうですか。

(4)㉚ おそかったですね。

㉛ そうですね。

㉜ あら、きれいなこうちゃぢゃわんですね。

(5)㉝ ええ、ちょっとおきゃくがくるんです。

㉞ あきこさんがくるんです。

㉟ ええ、おばさんからかりたんです。

㊱ でんしゃにこれをわすれてしまったんです。

㊲ これ、わってしまいました。

(6)㊳ へえー、だれがくるんです？

(7)㊴ おきゃくさんがくるんですか。

㊵ だれかくるんですか。

㊶ しているんですか。

㊷ ざんねんだなー、でかけてしまうんですか。

(8)㊸ ぼく、いまからでかけるんですよ。

㊹ えっ、ぼくも、ケーキをかっておいたんですよ。

㊺ さっき、そうじをしたんですよ。

(9)㊻ いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。

でんしゃ〔電車〕(2)

㉗ いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。

㉘ でんしゃにこれをわすれてしまったんです。

どうぞ (3)

㉙ どうぞ。

㉚㉛ さあ、どうぞ。

どうも (1)

㉜ どうもありがとうございました。

とどく〔届く〕 (1)

㉝ すぐ、こちらにとどきますよ。

ともだち〔友達〕 (1)

㉞ まあ、ともだちをよんで、みんなでたべましょうか。

どんな (1)

㉟ どんなものですか。

な (2)

㊱ さんねんだなー、でかけてしまうんですか。

㊲ あっ、こまったな……。

なーんだ (1)

㊳ なーんだ、きみか。

なる (1)

㊴ おそくなってしまって、ごめんなさい。

に (6)

(1)㊵ いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。

㊶ ほかのは、ここにおいておきます。

㊷ すぐ、こちらにとどきますよ。

㊸ でんしゃにこれをわすれてしまったんです。

(2)㊹ あきさんによろしく。

(3)㊺ たのしみにしていますよ。

ね (8)

- ③ たくさんかいものをしましたね。
- ⑭ おや、そうじをしていますね。
- ④⑨ ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。
- ⑤④ ほーう、こうちゃちゃわんがよいしてありますね。
- ⑥⑧ おそかったですね。
- ⑦⑧ そうですね。
- ⑧① ずいぶん、きれいにしてありますね。
- ⑧③ あら、きれいなこうちゃちゃわんですね。

の(5)

- (1)⑥ おへやのそうじは、してありますか。
- ⑦① いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。
- ②⑨ ケーキのはこです。
- ③⑦ いとうさん、おへやのそうじは、しましたか。
- (2)③⑤ ほかのは、ここにおいておきます。

は(4)

- ⑥ おへやのそうじは、してありますか。
- ③⑤ ほかのは、ここにおいておきます。
- ③⑦ いとうさん、おへやのそうじは、しましたか。
- ④⑦ そうじは、おわりましたか。

はい(2)

- ③⑥ はい。
- ⑦② はい、おみやげ。

はこ〔箱〕(1)

- ②⑨ ケーキのはこです。

ハム(1)

- ②① ハムもチーズもかってあります。

ビール(2)

- ②⑩ ほら、ビールがひやしてあります。

⑤⑦ ほら、ビールもひやしてありますよ。

ひやす [冷やす] (2)

②④ ほら、ビールがひやしてあります。

⑤⑦ ほら、ビールもひやしてありますよ。

へえー (1)

①⑦ へえー、だれがくるんです？

へへへ (1)

④⑤ へへへ。

へや [部屋] (2)

⑥ おへやのそうじは、してありますか。

③⑦ いたうさん、おへやのそうじは、しましたか。

ほー (1)

④⑨ ほー、ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。

ほーう (1)

⑤⑧ ほーう、こうちゃちゃわんがよいしてありますね。

ほか [他] (1)

③⑤ ほかのは、ここにおいておきます。

ほく (2)

⑥⑨ ほく、いまからでかけるんですよ。

②④ えっ、ほくも、ケーキをかっておいたんですよ。

ほら (3)

②④ ほら、ビールがひやしてあります。

⑤⑦ ほら、ビールもひやしてありますよ。

③⑤ ほら。

ほん [本] (1)

①⑩ スプーンをよんほん、いれておきました。

ほんとう [本当] (1)

⑦⑩ あらー、ほんとう。





⑥7 やあ、いらっしゃい。

よ(9)

⑧ これからしますよ。

②2 あとでよびますよ。

②4 たのしみをしていますよ。

④2 すぐ、こちらにとどきますよ。

⑤7 ほら、ビールもひやしてありますよ。

⑤9 ぼく、いまからでかけるんですよ。

⑦4 えっ、ぼくも、ケーキをかっておいたんですよ。

⑦9 じゃ、こうちゃをいれますよ。

⑧2 さっき、そうじをしたんですよ。

よい(1)

④3 よかった。

ようい〔用意〕(1)

⑤4 ほーう、こうちゃちゃんわんがよういしてありますね。

よぶ〔呼ぶ〕(2)

(1)②2 あとでよびますよ。

(2)⑦7 まあ、ともだちをよんで、みんなでたべましょうか。

よろしい(2)

(1)③3 よろしいですか。

(2)③3 あきさんによろしく。

よん〔四〕(1)

①① スプーンをよんほん、いれておきました。

れんらく〔連絡〕(1)

③① すぐれんらくします。

わかる〔分かる〕(1)

③① わかりました。

わすれもの〔忘れ物〕(1)

㉗ いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。

わすれる〔忘れる〕(1)

㉘ でんしゃにこれをわすれてしまったんです。

わたし(1)

㉙ わたし、あらってきます。

わる〔割る〕(2)

㉚ これ、わってしまいました。

㉛ えっ、わってしまった……。

を(10)

③ たくさんかいものをしましたね。

⑪ スプーンをよんほん、いれておきました。

⑭ おや、そうじをしていますね。

㉗ いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。

㉚ おばさん、じゃあ、これをかります。

㉘ でんしゃにこれををわすれてしまったんです。

㉜ えっ、ぼくも、ケーキをかっておいたんですよ。

㉗ まあ、ともだちをよんで、みんなでたべましょうか。

㉙ じゃ、こうちゃをいれますよ。

㉚ さっき、そうじをしたんですよ。

ん(15)

(1)④ おきゃくさんがくるんですか。

⑮ だれかくるんですか。

⑯ ええ、ちょっとおきゃくがくるんです。

⑰ へえー、だれがくるんです？

⑱ あきこさんがくるんです。

㉑ きょう、あきこさんがくるんでしょう。

㉓ ぼく、いまからでかけるんですよ。

(2)㉕ ええ、おばさんからかりたんです。

- ⑧ さっき、そうじをしたんですよ。
- (3)⑤2 しっているんですか。
- (4)⑦4 えっ、ぼくも、ケーキをかっておいたんですよ。
- (5)⑥0 さんねんだなー、でかけてしまうんですか。
- (6)②7 いまのでんしゃにわすれものをしてしまったんですが……。
- ⑦1 でんしゃにこれをわすれてしまったんです。
- ⑧9 これ、わってしまったんです。

## 資料2. シナリオ全文

題 名 日本語教育映画  
「そうじは してありますか」  
——してある, しておく, してしまう——

企 画 国立国語研究所  
制 作 日本シネセル株式会社  
フィルム 16% EK カラー・スタンダード  
巻 数 全1巻  
上映時間 5分  
現 象 所 東映化学  
録 音 読売スタジオ  
完 成 昭和54年1月10日

### 制作スタッフ

制 作 静 永 純 一  
制作担当 佐 藤 吉 彦  
脚 本 前 田 直 明  
演 出 前 田 直 明  
演出助手 高 橋 涉  
撮 影 野 崎 嘉 彦  
撮影助手 楡 真須美  
照 明 伴 野 功  
音 楽 吉 田 征 雄  
録 音 小 川 正 城 (読売スタジオ)  
ネガ編集 亀 井 正

配 役 伊 藤 伊 藤 知 則  
秋 子 土 井 美 加  
大 山 御 友 公 喜  
鳥 井 玉 井 伸 吾  
おばさん 山 田 早 苗  
店 員 島 田 恵 美  
駅 員 鋤 柄 博 万

カット	画 面	セ リ フ
1	メイン・タイトル 日本語教育映画	
2	テーマ・タイトル そうじは してありますか ——してある，しておく， してしまう——	
3	〈庭先〉 伊藤，帰ってくる	
4	おばさんに声をかける	伊藤「①おばさん，そうじで すか。」 おばさん「②あら，いとうさ ん，おかえりなさい。」
5	伊藤 バスト	おばさん「③たくさんかいも のをしましたね。」
6	伊藤，通りすぎる (おばさん，声をかける)	おばさん「④おきゃくさんが くるんですか。」 伊藤「⑤ええ。」 おばさん「⑥おへやのそうじ は，してありますか。」 伊藤「⑦まだしてありません。 ⑧これからしますよ。」 おばさん「⑨そう。」
7	〈伊藤の部屋〉 室内，みかんを置く	
8	冷蔵庫を開ける	
9	〈洋菓子屋の店内〉 ケーキの箱	
10	店先(秋子と店員)	店員「⑩おまちどおさまでし た。 ⑪スプーンをよんほん， いれておきました。」 秋子「⑫ありがとう。」 店員「⑬どうもありがとうご

- |    |  |   |
|----|--|---|
| 11 | 〈伊藤の部屋〉<br>掃除をしている伊藤に通りが<br>かった大山, 声をかける | ざいました。』<br>大山「⑭おや, そうじをして<br>いますね。<br>⑮だれかくるんです<br>か。』<br>伊藤「⑯ええ, ちょっとおき<br>ゃくがくるんです。』<br>大山「⑰へえー, だれがくる<br>んです?』<br>伊藤「⑱あきこさんがくるん<br>です。』<br>大山「⑲あきこさんですか。』<br>伊藤「⑳ほら, ビールがひや<br>してあります。』<br>伊藤「㉑ハムもチーズもかっ<br>てあります。』<br>伊藤「㉒あとでよびますよ。』<br>大山「㉓じゃあ, あとで。<br>㉔たのしみにしていま<br>すよ。』 |
| 12 | 伊藤 B・S                                   |   |
| 13 | 大山 B・S                                   |   |
| 14 | 伊藤, 冷蔵庫を開く                               |   |
| 15 | 冷蔵庫内                                     |   |
| 16 | 冷蔵庫をしめる                                  |   |
| 17 | 大山去る                                     |   |
| 18 | 〈電車の中〉<br>座っている秋子                        |   |
| 19 | 秋子のM・S                                   |   |
| 20 | 網棚のケーキ箱                                  |   |
| 21 | 電車が止まり, 秋子降りる                            |   |
| 22 | ホームを歩く秋子                                 |   |
| 23 | 網棚のケーキ箱                                  |   |
| 24 | ホームを歩く秋子                                 |   |
| 25 | 階段を降りる秋子                                 | 秋子「㉕あっ……。』<br>㉖すみません。<br>㉗いまのでんしゃにわ<br>すれものをしてしまっ<br>たんですが……。』<br>駅員「㉘どんなものですか。』  |
| 26 | 駅員 M・S                                   |   |

27 秋子 UP  
28 駅員, 事務所内へ入る

29 待つ秋子  
30 <お婆さんの部屋>  
紅茶茶碗を選ぶ伊藤

31 伊藤 B・S  
32 お婆さん B・S  
33 伊藤 M・S

34 伊藤, 盆を持って去る

35 <ホームの駅事務所>  
待つ秋子, 駅員来る

36 秋子 B・S

37 <伊藤の部屋>  
待つ伊藤, ドアへ行く  
38 ドアを開く, 鳥井現れる  
39 伊藤 ヨリ

秋子「㉔ケーキのはこです。」  
駅員「㉕わかりました。  
㉖すぐれんらくします。」

伊藤「㉗お婆さん, じゃあ, これをかります。  
㉘よろしいですか。」

お婆さん「㉙どうぞ。」  
伊藤「㉚ほかのは, ここにおいておきます。」

お婆さん「㉛はい。  
㉜いとうさん, おへやのそうじは, しましたか。」

伊藤「㉝ええ, もうしてしまいました。」

お婆さん「㉞そうですか。」  
伊藤「㉟じゃあ, これ, かります。」

駅員「㊱ありました, ありました。  
㊲すぐ, こちらにとどきますよ。」

秋子「㊳よかった。  
㊴ありがとうございます。」

鳥井「㊵へへへ。」  
伊藤「㊶なーんだ, きみか。」



- |    |               |                                 |
|----|---------------|---------------------------------|
| 40 | 鳥井 B・S        | 鳥井「④⑦そうじは、おわりましたか。」             |
|    |               | 伊藤「④⑧ええ。」                       |
| 41 | 鳥井, 伊藤の部屋をのぞく |                                 |
| 42 | 室内 パン→伊藤      | 鳥井「④⑨ほー, ずいぶんきれいにそうじがしてありますね。」  |
|    |               | 伊藤「④⑩えっ, ええ, まあ。」               |
| 43 | 伊藤・鳥井 M・S     | 鳥井「④⑪きょう, あきこさんがくるんでしょう。」       |
|    |               | 伊藤「④⑫しているんですか。」                 |
|    |               | 鳥井「④⑬さっき, ききました。」               |
| 44 | 紅茶茶碗          | 鳥井「④⑭ほーう, こうちゃちゃわんがよういしてありますね。」 |
| 45 | 伊藤・鳥井 B・S     | 伊藤「④⑮ええ, おばさんからかりたんです。」         |
|    |               | 鳥井「④⑯そうですか。」                    |
| 46 | 伊藤, 冷蔵庫を開く    | 伊藤「④⑰ほら, ビールもひやしてありますよ。」        |
|    |               | ④⑱あとできませんか。」                    |
| 47 | 鳥井 ヨリ         | 鳥井「④⑳ばく, いまからでかけるんですよ。」         |
| 48 | 伊藤 ヨリ         | 伊藤「④㉑さんねんだなー, でかけてしまうんですか。」     |
| 49 | 鳥井去る          | 鳥井「④㉒ええ。」                       |
|    |               | ④㉓じゃあ, 行ってきます。                  |
|    |               | ④㉔あきこさんによろしく。」                  |
|    |               | 伊藤「④㉕ええ。」                       |

50	通りを歩く秋子	⑥いってらっしゃい。」
51	〈伊藤の部屋〉 ドアを開ける、秋子立っている	秋子「⑥こんにちは。」 伊藤「⑦やあ、いらっしゃい。 ⑧おそかったですね。 ⑨さあ、どうぞ。」
52	二人室内に入る	秋子「⑩おそくなってしまっ て、ごめんなさい。 ⑪でんしゃにこれをわ すれてしまったんで す。」
53	二人座る	秋子「⑫はい、おみやげ。 ⑬ケーキです。」
54	伊藤、ケーキの箱をとる	伊藤「⑭えっ、ぼくも、ケー キをかっておいたんで すよ。」 ⑮ほら。」
55	秋子 ヨリ	秋子「⑯あらー、ほんとう。」
56	二人	伊藤「⑰まあ、ともだちをよ んで、みんなでたべま しょうか。」 秋子「⑱そうですね。」 伊藤「⑲じゃ、こうちゃをい れますよ。 ⑳さあ、どうぞ。」
57	秋子 ヨリ (部屋を見回す)	秋子「㉑ずいぶん、きれいに してありますね。」
58	伊藤 ヨリ	伊藤「㉒さっき、そうじをし たんですよ。」
59	伊藤 ナメ秋子 (茶碗を手にとる)	秋子「㉓あら、きれいなこう ちゃぢゃわんですね。」
60	秋子、茶碗を手を持って立ちあがる	秋子「㉔わたし、あらってき ます。」 伊藤「㉕あっ、すみません。」

61	〈洗い場〉 茶碗を洗う秋子, 手もと (茶碗を落とす)	秋子「⑥いいえ。」
62	驚く秋子の顔	秋子「⑦あっ。」
63	破片を拾う秋子, 手もと	
64	〈伊藤の部屋〉 秋子, 部屋に帰って来る	秋子「⑧すみません。」
65	割れた茶碗と秋子	秋子「⑨これ, わってしまっ たんです。」
66	秋子 ナメ 伊藤	伊藤「⑩えっ, わってしまっ た……。」
67	割れた茶碗 UP	
68	伊藤 ヨリ	伊藤「⑪あっ, こまったな… …。」
69	秋子 ヨリ	秋子「⑫すみません。」
70	立ちつくす二人	
71	企画・制作タイトル 企画 国立国語研究所 制作 日本シネセル株式会 社	

日本語教育映画解説12

そうじは してありますか

—してある, しておく, してしまう—

昭和56年3月

国立国語研究所

〒115 東京都北区西が丘3-9-14

電話 東京(900) 3111(代表)

印刷所 神谷印刷株式会社

電話(912) 2571